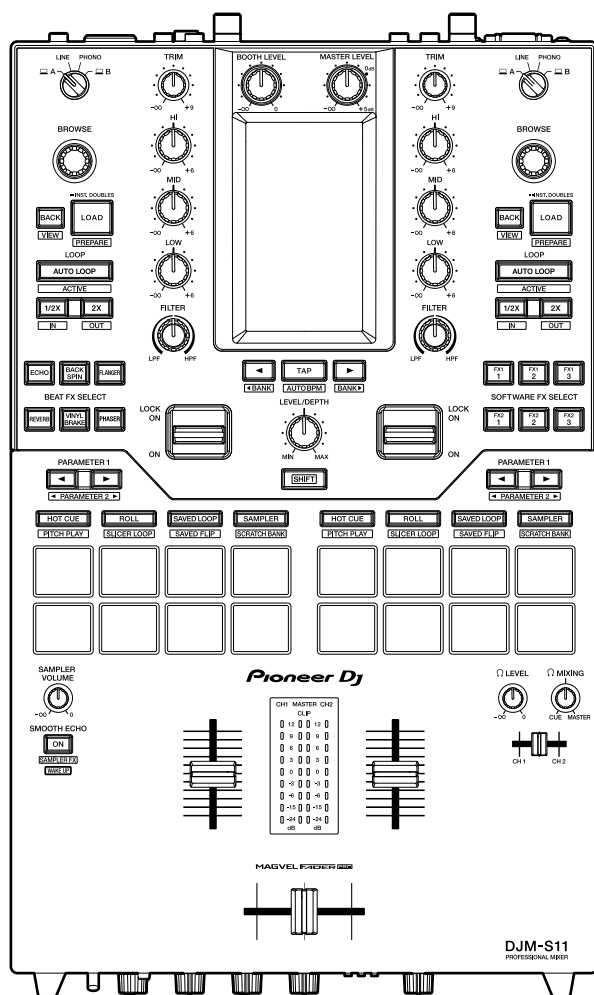




DJミキサー

DJM-S11

pioneerdj.com/support/

rekordbox.com

<http://serato.com/>

上記のサイトで、本製品の最新のソフトウェア情報やFAQなどのサポート情報をご覧ください。

もくじ

はじめに	6
本書の見かた	6
付属品を確認する	6
マニュアルを閲覧する	7
DJ ソフトウェアについて	8
Serato DJ Pro.....	8
rekordbox	9
各部の名称.....	10
コントロールパネル	10
本体フロント部	11
本体リア部	12
本体表示部	14
PC / Mac の準備.....	17
専用ソフトウェアについて	17
設定ユーティリティを使う	19
接続.....	26
入力端子に接続する	26
出力端子に接続する	27
CDJ/CONTROLLER 端子に接続する	28
DVS システム	29
接続	29
Serato DJ Pro の設定	31
再生.....	34
ブラウズセクション	34
ブラウズ画面.....	35
楽曲をライブラリに追加する	36

トラックを本機にロードする	37
トラックを再生する	37
音声出力	38
チャンネルセクション／マスターセクション	38
音声を出力する	40
チャンネル音声の音質を調整する	41
フェーダーを設定する	41
音声モニター	44
ヘッドホンセクション	44
ヘッドホンで音声をモニターする	44
ブースセクション	45
ブースモニターを使う	45
マイク	46
MIC セクション	46
マイクを使う	47
マイクエコーを使う	48
AUX	49
AUX セクション	49
AUX を使う	49
FILTER	50
FILTER セクション	50
FILTER やその他のエフェクトを使う	50
エフェクトの種類と設定方法	51
BEAT FX ／ SOFTWARE FX	53
エフェクトセクション	53
BEAT FX ／ SOFTWARE FX を使用する	54
BEAT FX の種類と設定方法	55
TOUCH FX を使う	60
FX BANK を使う	61

FX TRIGGER モードを使う	66
SMOOTH ECHO.....	67
SMOOTH ECHO セクション	67
SMOOTH ECHO を使う	67
ループ.....	70
LOOP セクション	70
ループを使う	71
パフォーマンスパッドの操作.....	72
パフォーマンスパッドセクション	72
Serato DJ Pro.....	73
rekordbox	88
ユーザーモード.....	95
ユーザーモードを使う	95
フェーダースタート	97
フェーダースタートを使う	97
DECK 3 / DECK 4.....	99
DECK 3 / DECK 4 を使う	99
TOUCH MIDI	103
TOUCH MIDI を使う	103
設定.....	104
設定を変更する	104
UTILITY 設定項目.....	105
クロスフェーダー部のクッションを交換する	112
スペック	119
仕様.....	119
ブロックダイアグラム	122
その他.....	123
故障かな？と思ったら	123
液晶画面について	123

商標および登録商標について	124
ソフトウェアライセンス	125
著作権	126

はじめに

本書の見かた

- このたびは、Pioneer DJ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本書と、本機に付属している「クイックスタートガイド」および「使用上のご注意」を必ずお読みください。すべて、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
- 本書では、製品本体、PC / Mac 画面に表示されるメニュー名、ボタン名および端子名などを、□ で囲んで記載しています。(例：[ファイル]、[CUE] ボタン)
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、開発途中のものであり、最終仕様と異なる場合があります。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合があります。
- 本書で説明しているソフトウェアの画面の言語が、実際の画面の言語と異なる場合があります。

付属品を確認する

- 電源コード
- USB ケーブル*1
- フェーダークッションA × 4*2
- フェーダークッションB × 2*2
- 保証書（一部の地域）*3
- クイックスタートガイド
- 使用上のご注意
- Serato DJ Pro EXPANSION PACK VOUCHER*4

*1 本機にはUSB ケーブルは1本しか付属されていません。2台接続時には、USB 2.0に準拠したケーブルをお使いください。

*2 製品のパネル内に収納されています。パネルのはずし方については、「クロスフェーダー部のクッションを交換する」（112 ページ）を参照してください。

*3 欧州向け製品のみ。（日本向け、北米地域は「使用上のご注意」に記載されています。）

*4 拡張パックをアクティベートするには、バウチャーコードが必要です。再発行できませんので、紛失しないように十分ご注意ください。

マニュアルを閲覧する

❖ Serato DJ Pro ソフトウェアマニュアル

下記の Serato DJ サイトをご確認ください。

<https://serato.com/dj/pro/downloads>

❖ rekordbox イン트로ダクション、操作説明書

「イン트로ダクション」は、rekordbox のセットアップ方法を記載しています。

「操作説明書」は、rekordbox の操作方法を記載しています。

下記の rekordbox サイトをご確認ください。

rekordbox.com/manual

DJソフトウェアについて

Serato DJ Pro または rekordbox をインストールした PC／Mac と本機を接続して、DJ プレイを楽しむことができます。

Serato DJ Pro

Serato DJ Pro は、Serato 社製の DJ ソフトウェアです。DVS に対応しています (29 ページ)。Serato DJ Pro ソフトウェアは本製品には付属されていません。下記のサイトにアクセスして、Serato DJ Pro ソフトウェアをダウンロードしてください。

<http://serato.com/>

- Serato DJ Pro の最新の動作環境、互換性、および対応 OS に関する情報は、下記のサイトを参照してください。

<https://serato.com/dj/pro/downloads>

- 上記の動作環境を満たしているすべての機器における動作を保障するものではありません。
- PC／Mac の省電力設定などによっては、CPU やハードディスクの処理能力を十分に発揮できないことがあります。特にノート型の PC／Mac では、AC 電源を接続するなど、高パフォーマンス設定で Serato DJ Pro を使用してください。

rekordbox

rekordbox は、楽曲管理と DJ パフォーマンスができる複合ソフトウェアです。

rekordbox ソフトウェアは本製品には付属されていません。下記のサイトにアクセスして、rekordbox ソフトウェアをダウンロードしてください。

rekordbox.com/system

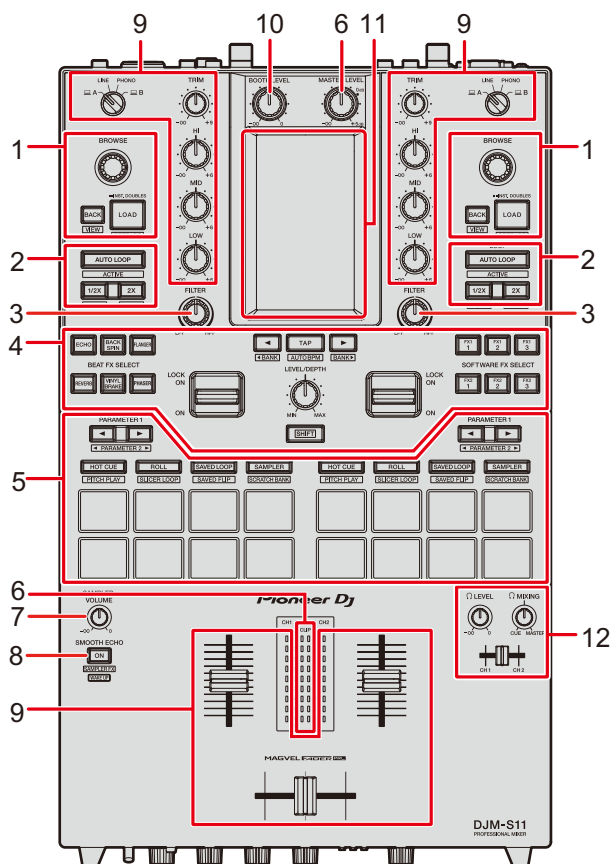
- rekordbox の DJ パフォーマンス機能を PERFORMANCE モードと呼びます。rekordbox を起動すると自動的に本機が認識され、PERFORMANCE モードが使用できるようになります。
- CDJ（対応するマルチプレーヤー）やターンテーブルのコントロール信号でデッキを操作する機能を DVS 機能と呼びます。rekordbox を起動すると自動的に本機が認識され、DVS 機能が使用できるようになります。
- rekordbox の最新の動作環境、互換性、および対応 OS に関する情報は、下記のサイトを参照してください。

rekordbox.com/system

- 上記の動作環境を満たしているすべての機器における動作を保障するものではありません。
- PC／Mac の省電力設定などによっては、CPU やハードディスクの処理能力を十分に発揮できないことがあります。特にノート型の PC／Mac では、AC 電源を接続するなど、高パフォーマンス設定で rekordbox を使用してください。

各部の名称

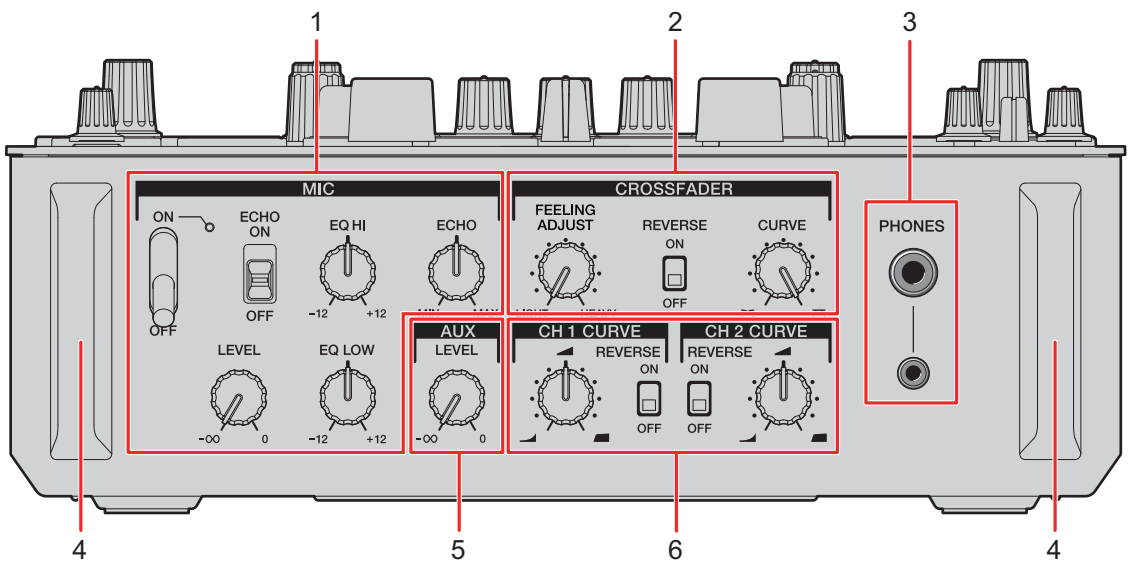
コントロールパネル



1. ブラウズセクション (34 ページ)
2. LOOPセクション (70 ページ)
3. FILTERセクション (50 ページ)
4. エフェクトセクション (53 ページ)
5. パフォーマンスパッドセクション (72 ページ)
6. マスターセクション (38 ページ)
7. SAMPLER VOLUME ノブ (76 ページ、91 ページ)
8. SMOOTH ECHO セクション (67 ページ)
9. チャンネルセクション (38 ページ)
10. ブースセクション (45 ページ)

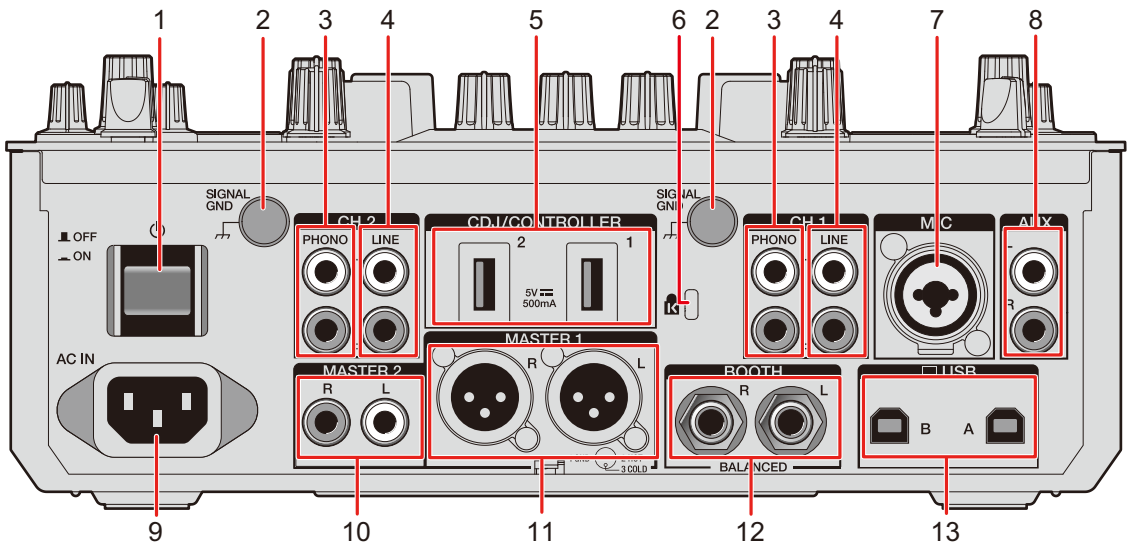
11. 本体表示部 (14 ページ)
12. ヘッドホンセクション (44 ページ)

本体フロント部



1. **MIC** セクション (46 ページ)
2. **CROSSFADER** セクション (42 ページ)
3. **PHONES** 端子 (44 ページ)
4. **フロントガード**
前面の端子やノブを保護します。
 - 製品の脚として使用しないでください。転倒の恐れがあります。
5. **AUX** セクション (49 ページ)
6. **CH CURVE** セクション (41 ページ)

本体リア部



1. 電源ボタン

本機の電源をオン／オフします。

⚠ 注意

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

2. SIGNAL GND 端子（26 ページ）

ターンテーブルのアース線を接続します。ターンテーブル接続時の雑音を低減します。

3. PHONO 端子（RCA）（26 ページ）

フォノレベル（MM カートリッジ用）の出力機器を接続します。

- ラインレベルの信号を入力しないでください。

- **[PHONO]** 端子接続時は、ショートピンプラグを取り外してください。このショートピンプラグは、**[PHONO]** 端子に何も接続しないときに外部ノイズをカットするために差し込んで使います。

警告

ショートピンプラグは幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

4. **LINE 端子 (RCA)** (26 ページ)

マルチプレーヤーやラインレベルの出力機器を接続します。

5. **CDJ/CONTROLLER 端子** (28 ページ)

対応するマルチプレーヤーやDJコントローラーと接続します。

- **[CDJ/CONTROLLER]** 端子に記録メディア (USB メモリ、USB ハードディスクなど) を接続しないでください。
入力切替えスイッチを切り替えると、接続されている PC / Mac からデバイスが強制的に接続解除され、デバイス上のデータが破損する可能性があります。ご注意ください。

6. **ケンジントンロック装着用穴**

盗難防止用のワイヤーロックを装着します。

7. **MIC 端子 (XLR または 1/4" / 6.35 mm、TRS)** (26 ページ)

8. **AUX 端子** (26 ページ)

ラインレベルの入力機器を接続します。

9. **AC IN** (26 ページ)

付属の電源コードで、コンセントと接続します。

10. **MASTER 2 端子 (RCA)** (27 ページ)

パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。

11. **MASTER 1 端子 (balanced XLR)** (27 ページ)

パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。

- 必ずバランス出力として使用してください。
- ほかの製品の電源コードを接続しないように注意してください。
- ファンタム電源が供給できる端子を接続しないでください。

12. **BOOTH 端子 (1/4" / 6.35 mm、TRS)** (27 ページ)

ブースモニター用の出力端子です。

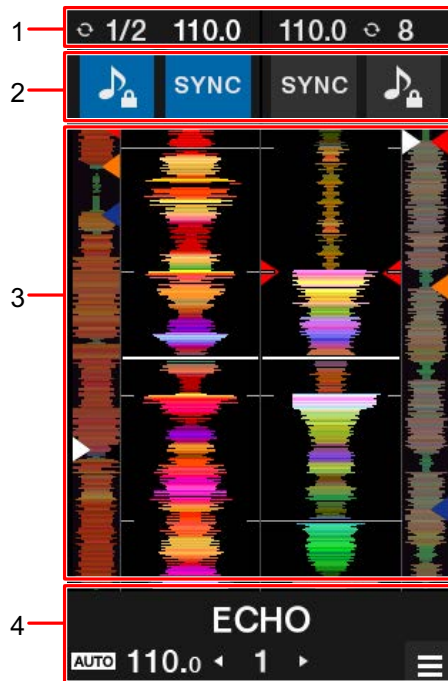
- 必ずバランス出力として使用してください。

13. **USB 端子** (26 ページ)

PC / Mac と接続します。

本体表示部

WAVEFORM 画面



1. 情報表示部

BPMとループ拍を表示します。

2. ソフトウェア操作部

ソフトウェアの機能进行操作するボタンを表示します。

- : キーロック機能のオン／オフを切り替えます。
- **[SYNC]**: シンク機能をオンにし、トラックのテンポとビートグリッドを自動で合わせます。**[SHIFT]** ボタンを押しながらタッチすると、シンク機能をオフにします。

3. WAVEFORM 表示部

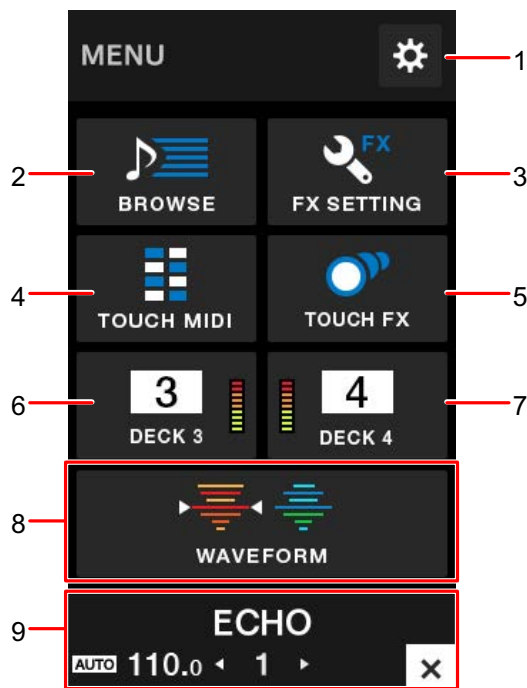
DJソフトウェアで解析した全体波形、詳細波形、ホットキューポイントなどを表示します。

4. エフェクト表示／MENU ボタン部

選択しているエフェクトの情報を表示します。

タッチすると、**[MENU]** 画面を表示します (15 ページ)。

MENU 画面



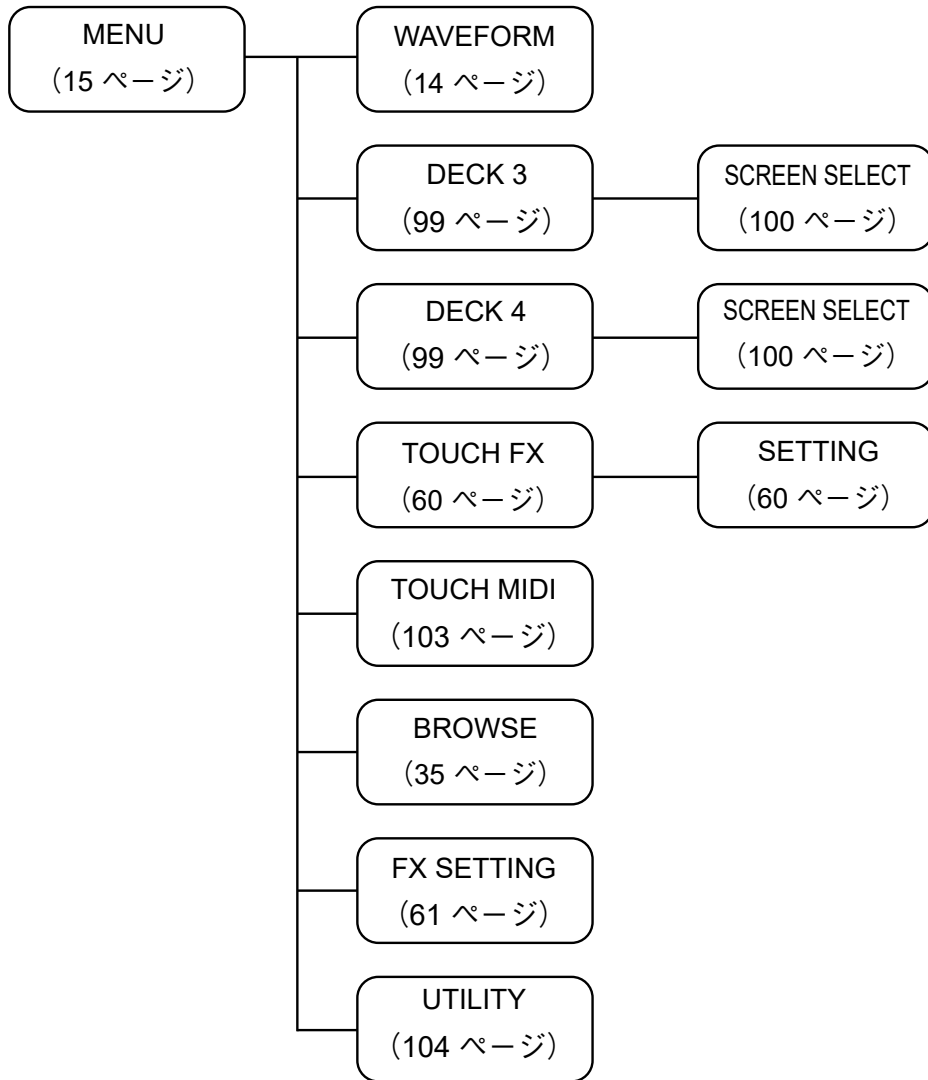
1.  (104 ページ)
UTILITYメニューを表示します。
2. **BROWSE** (35 ページ)
ブラウズ画面を表示します。
3. **FX SETTING** (61 ページ)
エフェクトの設定画面を表示します。
4. **TOUCH MIDI** (103 ページ)
TOUCH MIDI画面を表示します。
5. **TOUCH FX** (60 ページ)
TOUCH FX画面を表示します。
6. **DECK 3** (99 ページ)
DECK 3の操作画面を表示します。
7. **DECK 4** (99 ページ)
DECK 4の操作画面を表示します。
8. **WAVEFORM** (14 ページ)
WAVEFORM画面を表示します。

9. エフェクト表示／MENU ボタン部

選択しているエフェクトの情報を表示します。

タッチすると、前の画面を表示します。

❖ MENU 遷移図



PC / Mac の準備

専用ソフトウェアについて

本機にPC / Macの音声を入力／出力する場合は、お使いのPC / Macにあらかじめ専用オーディオドライバーソフトウェア／設定ユーティリティをインストールしてください。

Windowsをお使いの場合は、専用オーディオドライバーソフトウェアをインストールすると、設定ユーティリティも同時にインストールされます。

Macをお使いの場合は、設定ユーティリティのみインストールされます。

- 最新の動作環境、互換性、および対応OSに関する情報は、下記のPioneer DJサイトを参照してください。

pioneerdj.com/support/

- 上記の動作環境を満たしているすべての機器における動作を保障するものではありません。
- 1台のPC / Macに、本機を複数台接続した場合の動作は保証しません。
- オーディオドライバーソフトウェアがインストールされていないPC（Windows）を本機に接続すると、環境によってはPCにエラーが発生することがあります。
- お使いのPC / Mac上のソフトウェアとの組み合わせによっては、動作に不具合が発生することがあります。

専用ソフトウェアのインストール

❖ インストールについてのご注意

- インストールする前に、本機の電源をオフにし、本機と PC / Mac を接続している USB ケーブルを取り外してください。
- オーディオドライバーソフトウェアをインストールする前に、PC (Windows) 上のすべてのアプリケーションを終了してください。
- オーディオドライバーソフトウェアをお使いの PC (Windows) にインストールするには、管理者権限が必要です。
- インストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- インストールを途中で中止したときは、はじめからインストールをやり直してください。

専用ソフトウェアを入手する

下記のサイトにアクセスして、本機専用のオーディオドライバーソフトウェア／設定ユーティリティをダウンロードしてください。

pioneerdj.com/support/

専用ソフトウェアをインストールする

- 1 インストールファイルをダブルクリックする
- 2 「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] にチェックを入れて [OK] をクリックする
 - 「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意しないときは、[同意しない] (Mac の場合) / [キャンセル] (Windows の場合) をクリックして、インストールを中止してください。
- 3 画面の指示にしたがって、インストールする

設定ユーティリティを使う

PC / Macにインストールされている設定ユーティリティを使って、本機とPC / Macの接続の設定や確認ができます。

設定ユーティリティを表示する

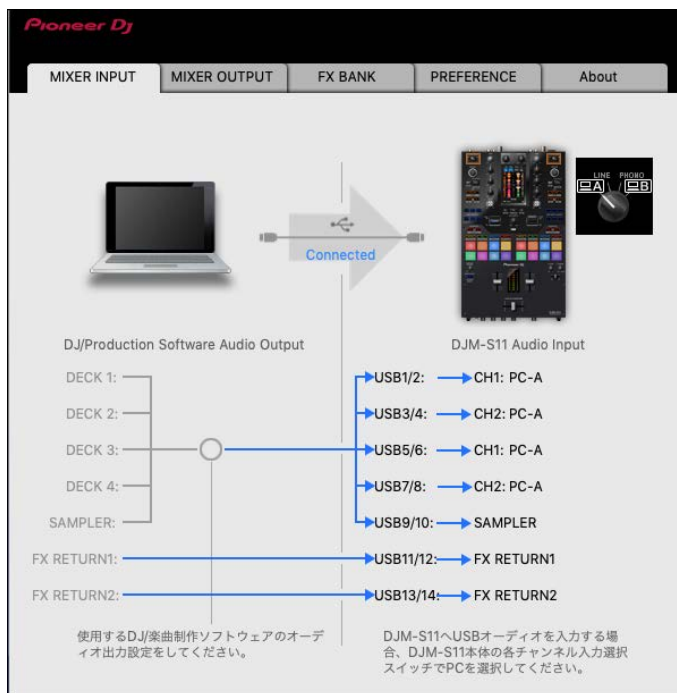
- 1 お使いのPC / Macのアプリケーションの一覧から、[Pioneer] → [DJM-S11 設定ユーティリティ] をクリックする

設定ユーティリティが起動します。

- UTILITYメニューの [PC UTILITY] から起動することもできます (110 ページ)。

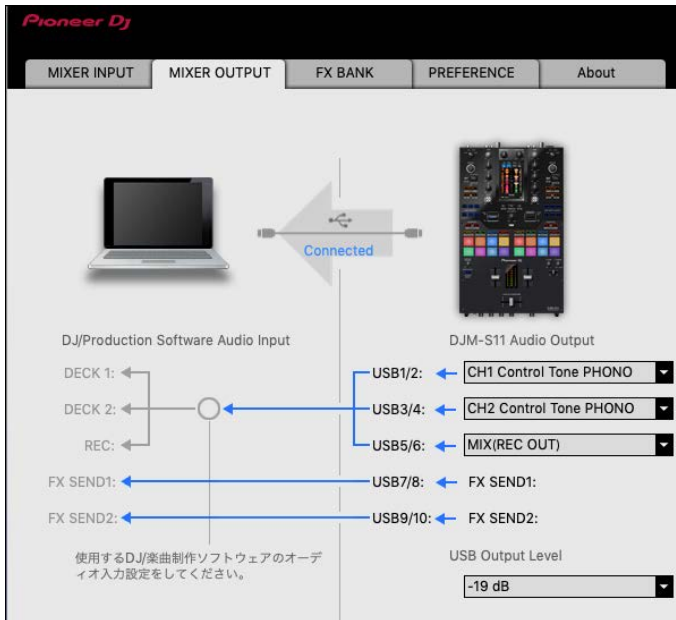
本機の入力切替えスイッチの状態を確認する

- 1 [MIXER INPUT] タブをクリックする



本機から PC / Mac への音声データ出力を設定する

- 1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする
- 2 [DJM-S11 Audio Output] のプルダウンリストをクリックし、本機から PC / Mac へ出力する音声を選択する



☞ 「Audio Output のプルダウンリスト一覧」 (25 ページ)

- 3 [USB Output Level] のプルダウンリストをクリックし、本機から出力する音量を選択する

- DJソフトウェアの音量調整で十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] で音量を調整します。音量を上げすぎると音声が歪むことがあります。ご注意ください。

バッファサイズを調整する（Windows ASIO 使用時）

- 本機を既定のオーディオデバイスとして利用しているアプリケーション（DJソフトウェアなど）が起動している場合は、終了してからバッファサイズを調整してください。

1 [ASIO] タブをクリックする

2 スライダーでバッファサイズを調整する



- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落（音とぎれ）などは発生しにくくなりますが、音声データの伝送遅延（レイテンシー）によるタイムラグが増大します。

エフェクトのアサインを変更する

本機の [BEAT FX SELECT] や [SOFTWARE FX SELECT] ボタン、[FILTER] ノブにアサインされているエフェクトを変更できます。

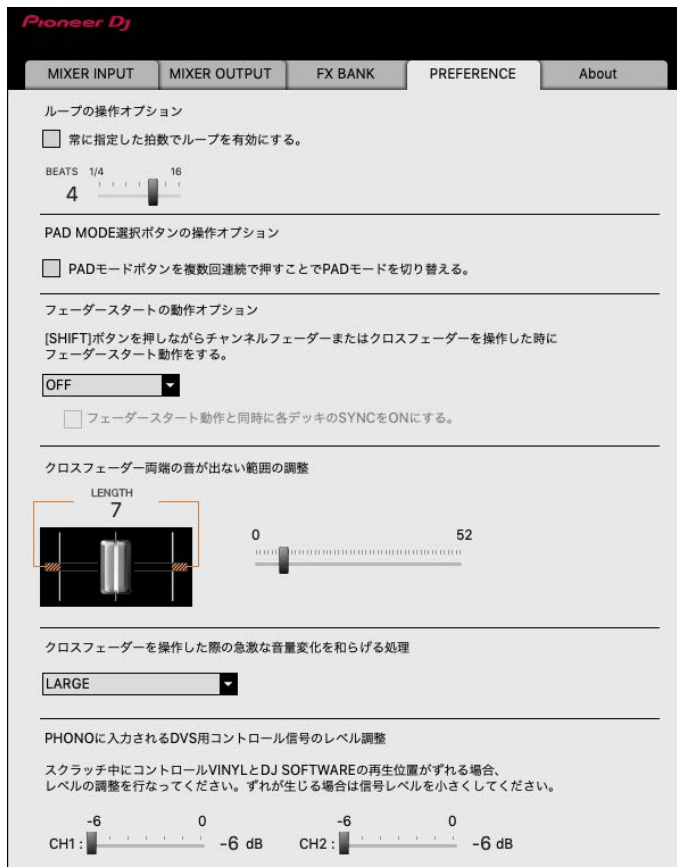
[BANK A]、[BANK B]、[BANK C] または [BANK D] に設定を保存し、必要なときに呼び出して使用できます。

❏ 「設定ユーティリティで設定する」 (61 ページ)

各種設定を変更する

1 [PREFERENCE] タブをクリックする

2 各種設定を変更する

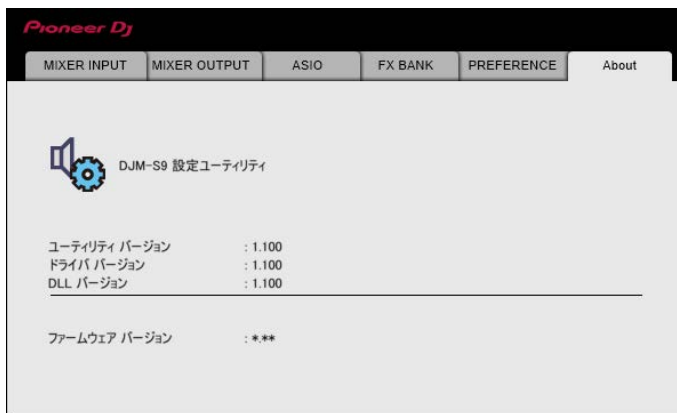


設定項目	説明
ループの操作オプション ¹	チェックを入れると、スライダーで設定するループの長さが有効になります。 チェックを外すと、本機の [AUTO LOOP] ボタンがオートビートループボタンとして動作します。
PAD MODE選択ボタンの操作オプション	チェックを入れると、パッドモードボタンを2回、3回、または4回続けて押すことでパッドモードを切り替えることができます。 本機にPC / Macを2台接続し、CH 1とCH 2の入力切替えスイッチが異なるPC / Macを選択しているときは、それぞれのPC / Macで設定が選択されているときに有効になります。
フェーダースタートの動作オプション	フェーダースタート機能を有効にするには、プルダウンリストから [ON] を選択しチェックボックスにチェックを入れます。  「フェーダースタートを使う」(97 ページ)
クロスフェーダー両端の音が出ない範囲の調整	スライダーで、クロスフェーダーの両端の音声を出力しない範囲を設定します。 本機にPC / Macを2台接続し、CH 1とCH 2の入力切替えスイッチが [LINE] または [PHONO] を選択しているときは、この設定は無効になります（初期設定値で動作します）。
クロスフェーダーを操作した際の急激な音量変化を和らげる処理	音量を変化させる時間を調整して、クロスフェーダーを操作した際の急激な音量変化を緩和します。 - 本機にPC / Macを2台接続しているときに、以下の場合は [NONE] 設定で動作します。 - CH 1とCH 2の入力切替えスイッチが異なるPC / Macを選択している - CH 1とCH 2の入力切替えスイッチが [LINE] または [PHONO] を選択している

設定項目	説明
PHONOに入力されるDVS 用コントロール信号のレベ ル調整	スクラッチ中に CONTROL VINYL と DJ ソフトウェア の再生位置がずれる場合に、レベル調整を行います (ずれがある場合は、信号レベルを小さくします)。

ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する

1 [About] タブをクリックする



Audio Output のプルダウンリスト一覧

- CH 4 (USB 7/8)、CH 5 (USB 9/10) は、[FX SEND] 固定です。

: チャンネル番号

CH 1 (USB 1/2)、CH 2 (USB 3/4)	CH 3 (USB 5/6)
CH# Control Tone PHONO ^[1]	MIX(REC OUT) ^{[2] [4]}
CH# Control Tone LINE ^[1]	CROSSFADER A ^{[2] [3]}
Post CH# Fader ^[2]	CROSSFADER B ^{[2] [3]}
CROSSFADER A ^{[2] [3]}	MIC
CROSSFADER B ^{[2] [3]}	AUX
MIC	Post CH1 Fader ^[2]
AUX	Post CH2 Fader ^[2]

- ^[1] 対応ソフトウェアで使用可能です。[USB Output Level] の設定に関係なく、本機に入力された音量のまま出力されます。
- ^[2] 録音用途以外で使用するときは、音声のループが発生しないよう DJ ソフトウェアの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。
- ^[3] [ECHO]、[DUCKING ECHO]、[ECHO OUT]、[SPIRAL]、[DELAY] のエフェクトがかかった音声は、[CROSSFADER A] または [CROSSFADER B] から出力されます。
- ^[4] [REVERB] のエフェクトのかかった音声は、[MIX(REC OUT)] から出力されます。

接続

接続を行う前に、必ず本機の電源をオフにし、電源コードを抜いてください。

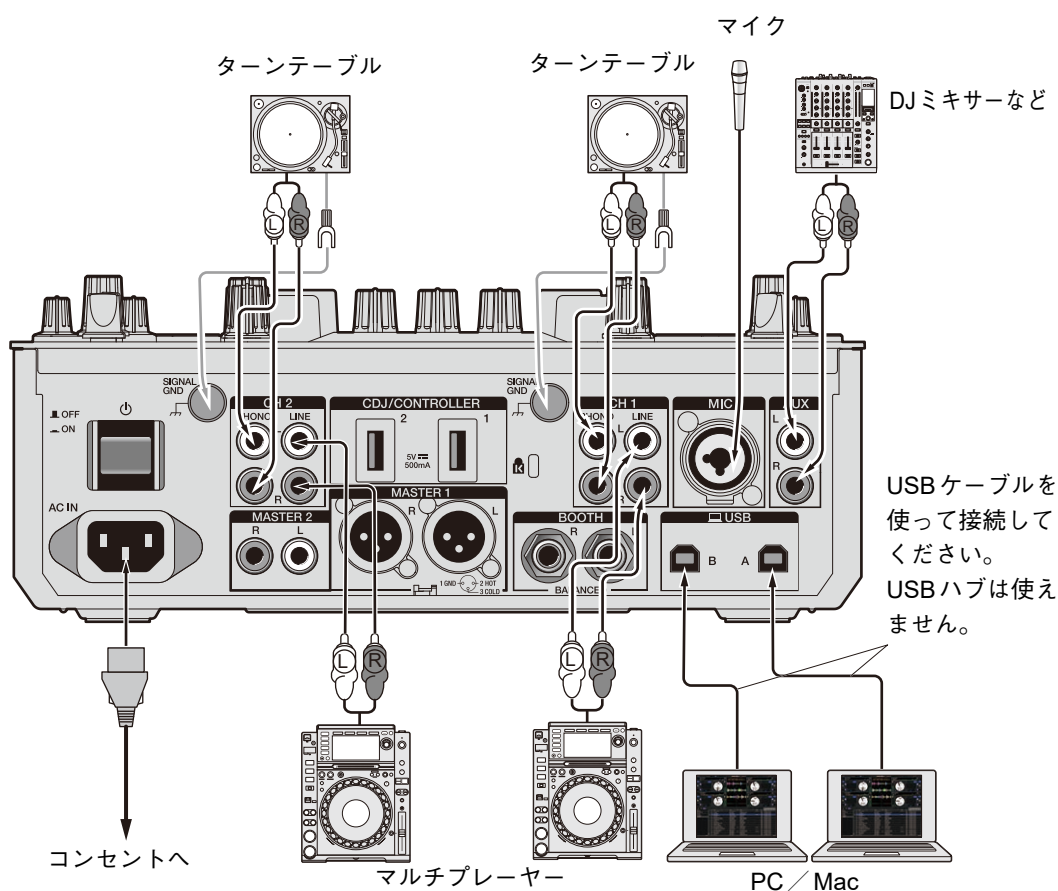
電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。

- 付属の電源コードを使用してください。
- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。

入力端子に接続する

- PC／Macなどと組み合わせてDVS（Digital Vinyl System）を使用するときは、本機の入力端子の接続および入力切替えスイッチの設定に注意してください。
DJソフトウェアの取扱説明書も参照してください。

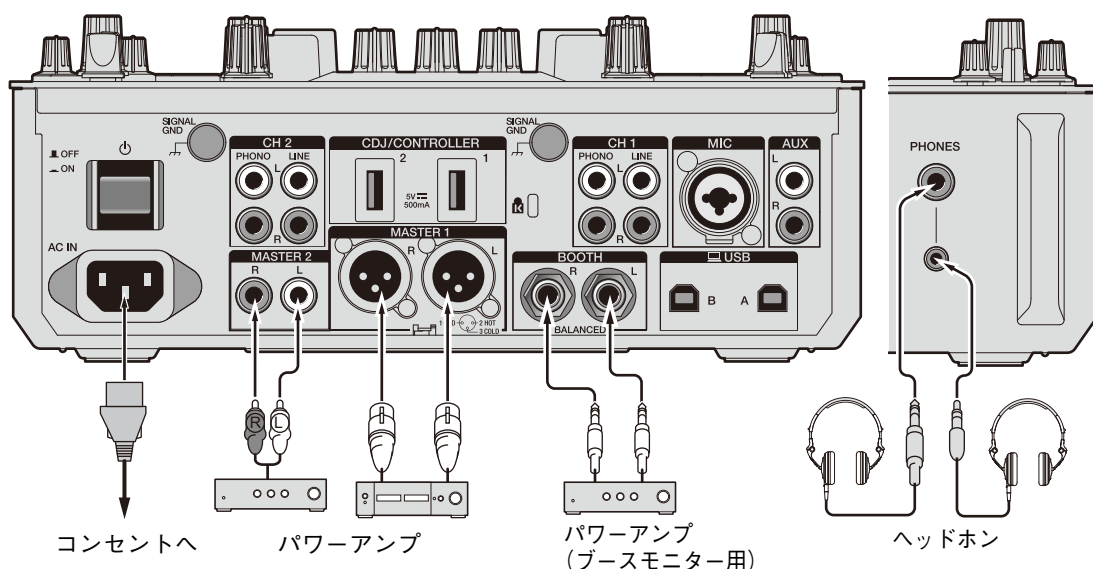
■ 「DVSシステム」 (29 ページ)



出力端子に接続する

本体リア部

本体フロント部

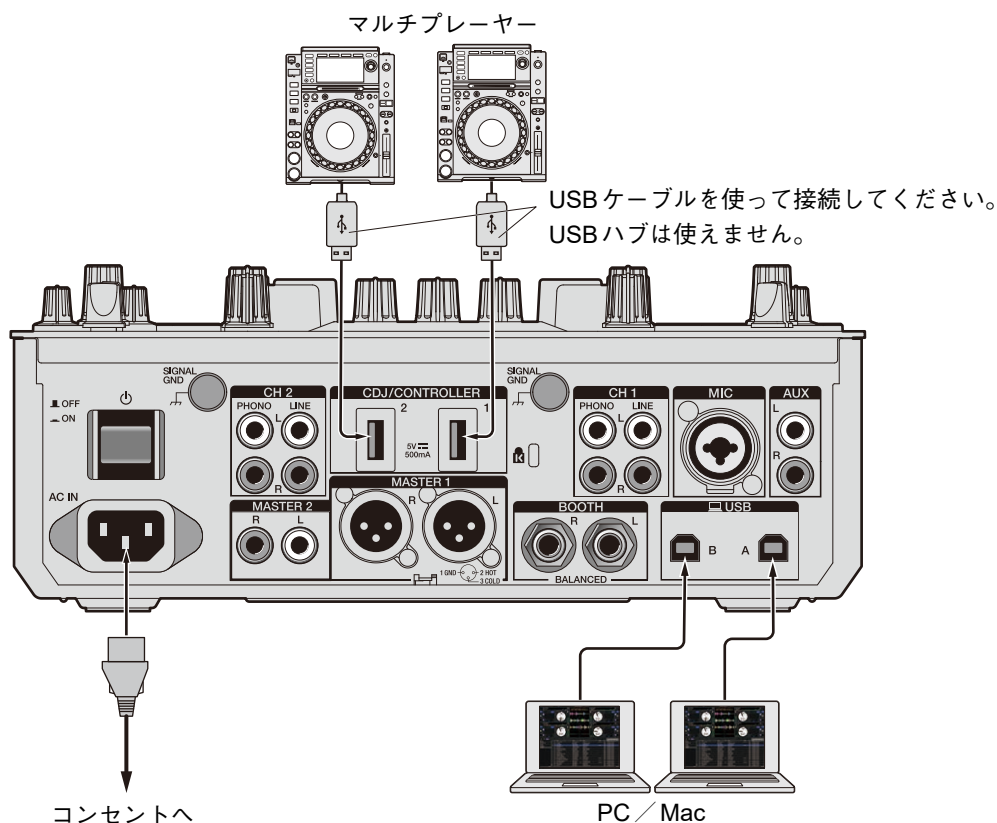


- **[MASTER 1]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。XLR-RCA変換ケーブル（変換アダプター）などを使ってアンバランス入力（RCAなど）へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- アンバランス入力（RCAなど）の接続には、**[MASTER 2]** 端子を使用してください。
- **[BOOTH]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。アンバランス入力へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- **[MASTER 1]** 端子にほかの製品の電源コードや、ファンタム電源が供給できる端子を接続しないように注意してください。

CDJ/CONTROLLER 端子に接続する

[CDJ/CONTROLLER] 端子にマルチプレーヤーを接続すると、マルチプレーヤーから DJ ソフトウェアをコントロールできます。

DJ ソフトウェアの取扱説明書も参照してください。



- [CDJ/CONTROLLER] 端子に記録メディア（USB メモリ、USB ハードディスクなど）を接続しないでください。

入力切替えスイッチを切り替えると、接続されている PC / Mac からデバイスが強制的に接続解除され、デバイス上のデータが破損する可能性があります。ご注意ください。

DVS システム

本機と、Serato DJ Pro や rekordbox などの DJ ソフトウェア、コントロールディスク（デジタル音楽ファイル进行操作するのに必要なコントロール信号が収録された特殊な CD やレコード）を使用すると、ターンテーブルやマルチプレーヤーを使ってデジタル音楽ファイル进行操作できます。

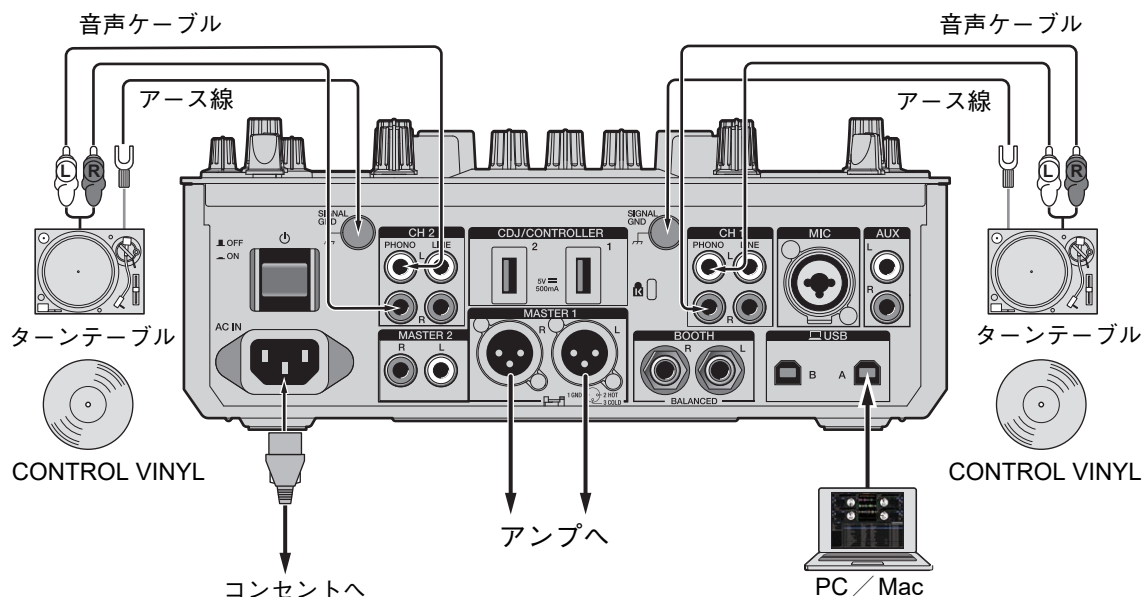
- コントロールディスクは本製品には付属されていません。別途ご購入ください。
- コントロール信号は、Serato DJ Pro や rekordbox のサイトからダウンロードし、USB メモリに保存して使用することもできます。
- rekordbox で DVS 機能を使用する場合は、下記の rekordbox サイトの rekordbox dvs セットアップガイドを参照してください。

rekordbox.com/manual

接続

ターンテーブルを使う

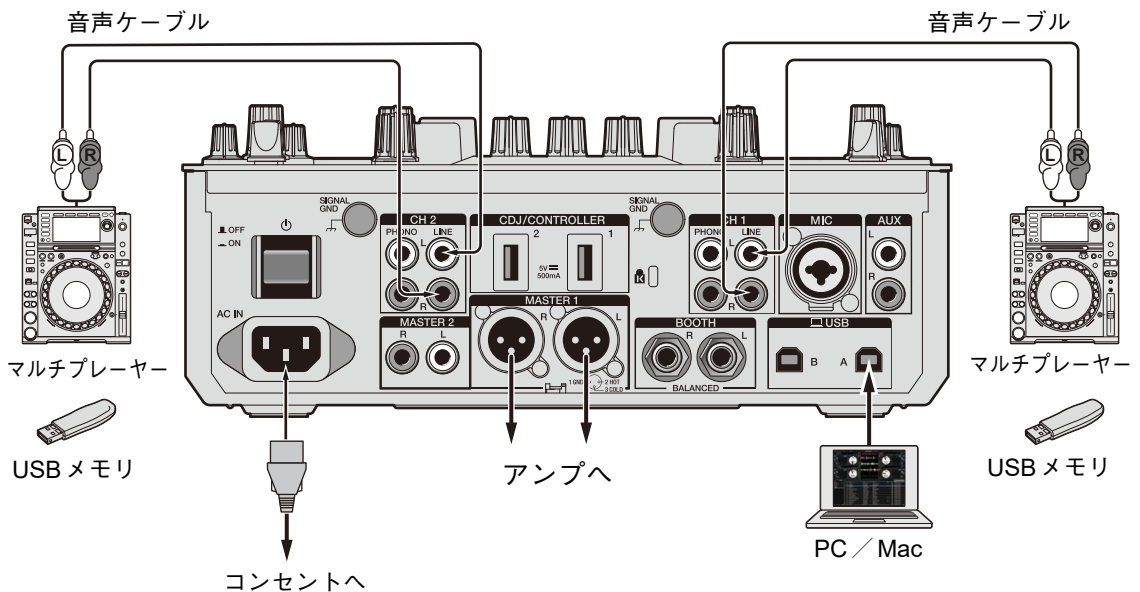
DJ ソフトウェアの [DECK 1] と [DECK 2] を、ターンテーブルと接続して使う場合を例に説明します。



- 1 [DECK 1]をコントロールするターンテーブルと[CH 1]の[PHONO]端子を、[DECK 2]をコントロールするターンテーブルと[CH 2]の[PHONO]端子を接続する
- 2 各ターンテーブルのアース線を、本機の[SIGNAL GND]端子に接続する
- 3 ターンテーブルにCONTROL VINYLをセットする
- 4 本機の[CH 1]と[CH 2]の入力切替えスイッチを[☐ A/B]（接続例の場合は[☐ A]）に設定する

マルチプレーヤーを使う

DJソフトウェアの[DECK 1]と[DECK 2]を、マルチプレーヤーと接続して使う場合を例に説明します。

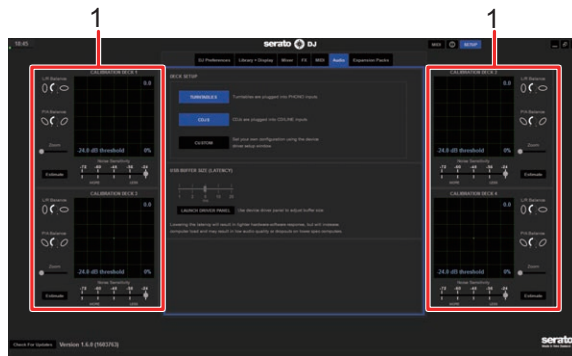


- 1 [DECK 1] をコントロールするマルチプレーヤーと [CH 1] の [LINE] 端子を、[DECK 2] をコントロールするマルチプレーヤーと [CH 2] の [LINE] 端子を接続する
- 2 コントロール信号をコピーした USB メモリをマルチプレーヤーに接続し、再生する
- 3 本機の [CH 1] と [CH 2] の入力切替えスイッチを [☐ A/B] (接続例の場合は [☐ A]) に設定する

Serato DJ Pro の設定

SETUP 画面

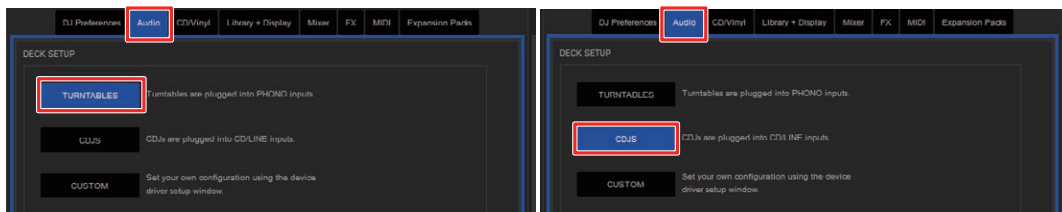
Serato DJ Pro と本機が接続されているときの Serato DJ Pro の SETUP 画面は以下のような表示となります (画面は、ドライバソフトウェア／設定ユーティリティをインストールしたあとに、PC／Mac と本機を接続したときの表示です)。



1. **CALIBRATION DECK** : Serato DJ Pro は、コントロールディスクからアナログの信号を算出し、デジタルオーディオファイルの信号処理をします。使用環境ごとに、異なる信号レベルや機器の状態を算出し、コントロール信号の読み取りに最適な設定ができます。
CALIBRATION DECK が表示されていないときは、[Expansion Packs] タブをクリックし、リストから [Vinyl/CDJ Control] を選択して、[Enable Vinyl/CDJ control] にチェックを入れてください。

Serato DJ Pro を設定する

- 1 Serato DJ Pro の画面で、[SETUP] をクリックする
- 2 SETUP 画面の [Audio] タブで、[TURNTABLES] または [CDJS] を選択する



コントロール信号を確認する

- 1 接続したターンテーブルまたはマルチプレーヤーを操作して、トラック1を再生する

[CALIBRATION DECK] に緑の輪が表示されます。



- 一番内側の輪が、正円に近い状態になっていることを確認してください。詳細については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（7 ページ）。

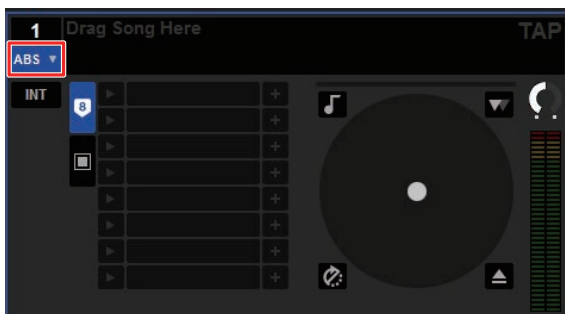
再生モードを選択する

Serato DJ Pro には、3つの再生モード（[ABS]、[REL]、[INT]）があります。

- 再生モードの詳細については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（7 ページ）。

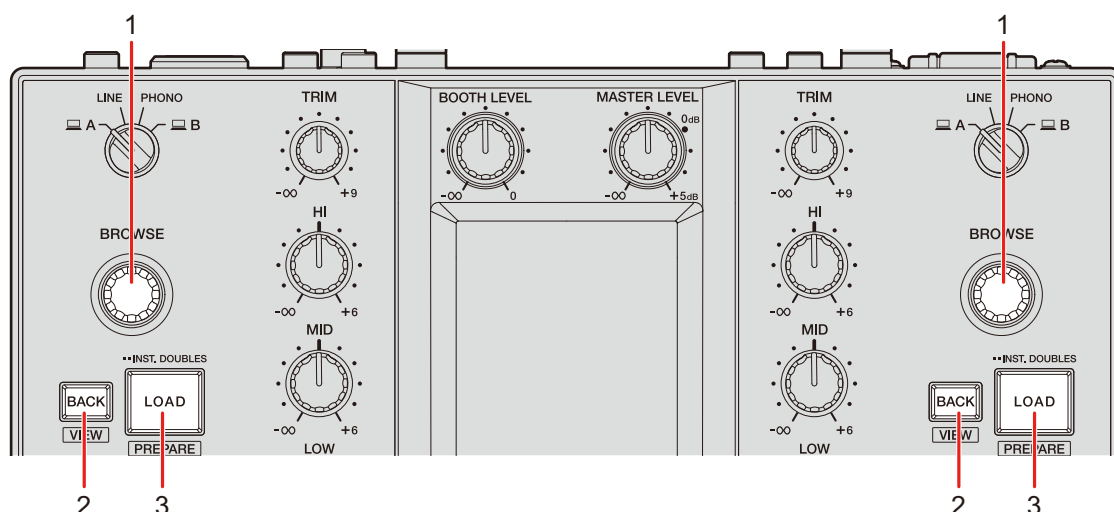
1 デッキパネルのプルダウンリストから、[ABS]、[REL]、または [INT] を選択する

[ABS] を選んだ場合：



再生

ブラウズセクション



1. BROWSE ノブ

UTILITYの[BROWSE AUTO TRANSITION]が[ON]に設定されてるときは(107 ページ)、ノブを操作するとブラウズ画面を表示します(35 ページ)。

回すと、カーソルを上下に移動します。

押すと、Serato DJ Pro画面のcratesパネルとライブラリーパネル間でカーソルを移動します。[Files]パネル内ではカーソルが下位階層へ移動し、[Browse]パネル内ではカーソルが次のカテゴリーへ移動します。

2. BACK ボタン

Serato DJ Pro画面のcratesパネルとライブラリーパネル間でカーソルを移動します。cratesパネルで選択中の項目にsub crateがある場合は、sub crateを表示／非表示します。[Files]パネル内ではカーソルが上位階層へ移動し、[Browse]パネル内ではカーソルが前のカテゴリーへ移動します。

[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、Serato DJ Proの画面レイアウトを切り替えます。

3. LOAD ボタン

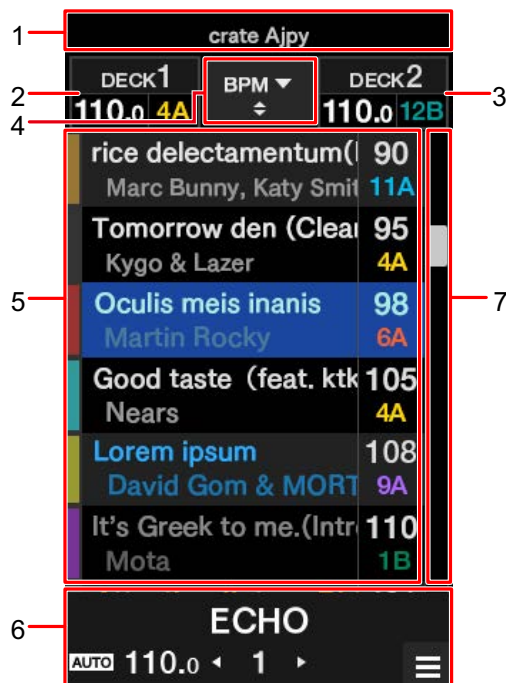
選択しているトラックを本機にロードします。

2回続けて押すと、ほかのデッキにロードされているトラックを[LOAD] ボタンを押したデッキにロードします。トラックが再生中のときは、同じ位置から再生を開始します(インスタントダブルス)。

[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、[Prepare] パネルにトラックをロードします。

ブラウズ画面

UTILITY の [BROWSE AUTO TRANSITION] が [ON] に設定されてるときは (107 ページ)、[BROWSE] ノブを操作するとブラウズ画面を表示します。



1. 上位階層表示

2. DECK 1 の情報表示

3. DECK 2 の情報表示

4. ソートボタン

ライブラリーのソート項目 (SONG、ARTIST、BPM、KEY、TRACK) と、ソートの昇順と降順を切り替えます。

5. ライブラリー表示

上下にスライドして、リストをスクロールします。

トラックを左にスワイプすると、DECK 1 に楽曲をロードします。

トラックを右にスワイプすると、DECK 2 に楽曲をロードします。

6. エフェクト表示 / MENU ボタン部

選択しているエフェクトの情報を表示します。

タッチすると、[MENU] 画面を表示します (15 ページ)。

7. クイックサーチエリア

スライドすると、リストを素早くスクロールします。

楽曲をライブラリに追加する

Serato DJ Pro で、ライブラリに楽曲を追加します。

1 Serato DJ Pro の画面で、[Files] をクリックする

[Files] パネルに、お使いの PC / Mac や、PC / Mac に接続されている周辺機器に含まれているフォルダーやファイルが表示されます。

2 [Files] パネルで、ライブラリーに加えたい楽曲が含まれているフォルダーをクリックする

フォルダーが選択されます。

3 選択したフォルダーを、**crates** パネルにドラッグ & ドロップする

crate が作成され、ライブラリーに楽曲が追加されます。

トラックを本機にロードする

- 1 [BROWSE] ノブを押して、Serato DJ Pro 画面の **crates** パネルにカーソルを移動させる
- 2 [BROWSE] ノブを回して、**crate** などを選択する
- 3 [BROWSE] ノブを押す

カーソルがライブラリーパネルに移動します。

- [BACK] ボタンを使って、crates パネルとライブラリーパネル間でカーソルを移動することもできます。

- 4 [BROWSE] ノブを回して、トラックを選択する
- 5 [LOAD] ボタンを押す

選択しているトラックが、[LOAD] ボタンを押したデッキにロードされます。

- DECK 3 または DECK 4 にトラックをロードするときは、DECK 3 または DECK 4 の画面から操作を行ってください (99 ページ)。

トラックを再生する

- 1 マルチプレーヤーやターンテーブル、DJ コントローラーを操作してトラックを再生する

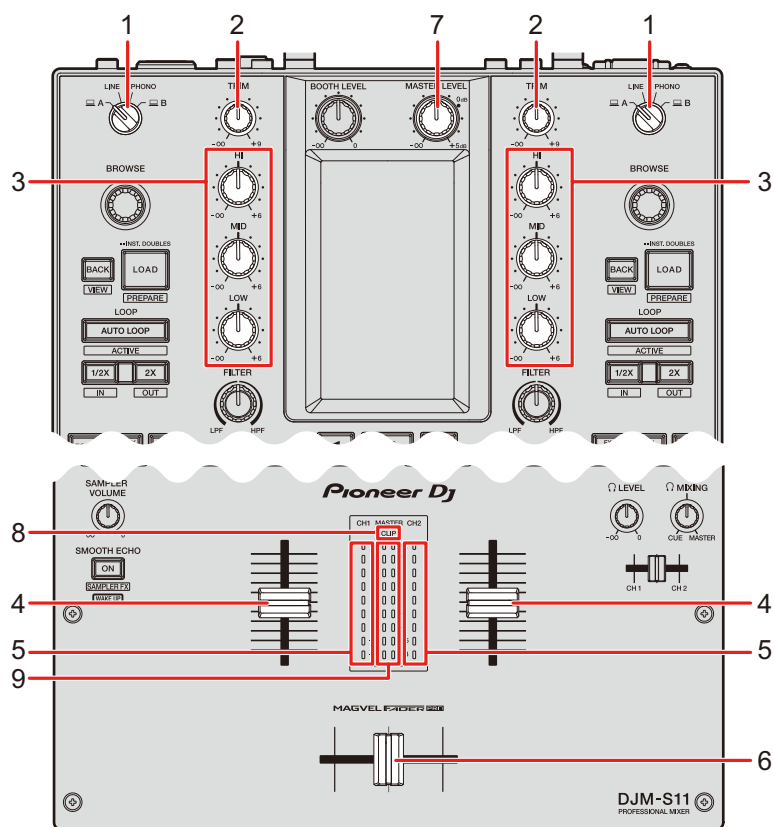
音声出力

以下の操作を行って、音声を出力します。

- －「音声を出力する」(40 ページ)
- －「チャンネル音声の音質を調整する」(41 ページ)
- －「フェーダーを設定する」(41 ページ)

■ [BOOTH] 端子から音声を出力する方法については、「ブースモニターを使う」(45 ページ) を参照してください。

チャンネルセクション／マスターセクション



❖ チャンネルセクション

1. 入力切替えスイッチ

入力音声を選択します。

- **[A,B]** : **[USB]** 端子に接続している PC / Mac
- **[LINE]** : **[LINE]** 端子に接続しているマルチプレーヤーなど
- **[PHONO]** : **[PHONO]** 端子に接続しているターンテーブル

2. TRIM ノブ

チャンネルの入力音声の音量を調整します。

3. HI, MID, LOW ノブ

各音域の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- **[HI]** : $-\infty$ dB ~ +6 dB (ISO) / -26 dB ~ +6 dB (EQ)
- **[MID]** : $-\infty$ dB ~ +6 dB (ISO) / -26 dB ~ +6 dB (EQ)
- **[LOW]** : $-\infty$ dB ~ +6 dB (ISO) / -26 dB ~ +6 dB (EQ)

4. チャンネルフェーダー

[CH1 CURVE]、**[CH2 CURVE]** ノブで指定されているカーブ特性 (41 ページ) にしたがって、音声を出力します。奥側へスライドすると音量が上がり、手前へスライドすると音量が下がります。

[SHIFT] ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを一番手前の位置から奥側へスライドすると、チャンネルフェーダースタートを実行できます (97 ページ)。

5. チャンネルレベルインジケータ

チャンネルフェーダー通過前の音量を表示します。

6. クロスフェーダー

[CROSSFADER CURVE] ノブで指定されているカーブ特性 (42 ページ) にしたがって、音声を出力します。CH 1 側へスライドすると CH 1 の音声を、CH 2 側へスライドすると CH 2 の音声を出力します。

[SHIFT] ボタンを押しながらクロスフェーダーを端から逆側へスライドすると、クロスフェーダースタートを実行できます (98 ページ)。

❖ マスターセクション

7. MASTER LEVEL ノブ

マスター音声の音量を調整します。

8. CLIP インジケーター

[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から過大音量が出力されたときに点滅します。

9. マスターレベルインジケーター

[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子に出力するマスター音声の音量を表示します。

音声を出力する

チャンネル入力音量を調整する

1 入力切替えスイッチを回して、入力音声を選択する

2 [TRIM] ノブを回して、入力音声の音量を調整する

音声が入力されると、チャンネルレベルインジケーターが点灯します。

チャンネル出力音量を調整する

1 チャンネルフェーダーを動かして、出力音声の音量を調整する

2 クロスフェーダーを動かして、出力音声を調整する

マスター音量を調整する

1 [MASTER LEVEL] ノブを回して、マスター音声の音量を調整する

マスター音声が入力されると、マスターレベルインジケーターが点灯します。

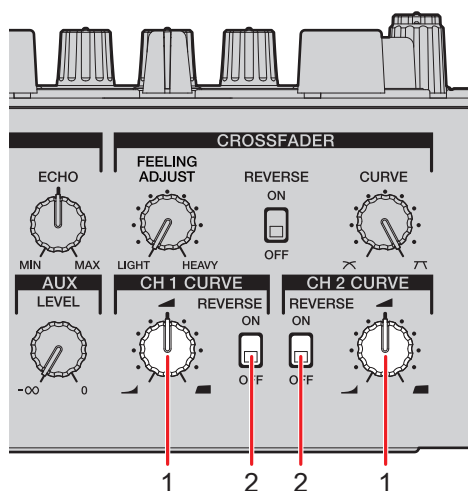
チャンネル音声の音質を調整する

- 1 [HI]、[MID]、[LOW] ノブを回して、各音域の音質を調整する

フェーダーを設定する

チャンネルフェーダーとクロスフェーダーを設定します。

CH CURVE セクション



1. CH 1/2 CURVE ノブ

チャンネルフェーダーカーブを設定します。

- ：奥側で急峻に音が立ち上がります。
- ：奥側にスライドすると、徐々に音が立ち上がります。
- ：手前で急峻に音が立ち上がります。

2. REVERSE スイッチ

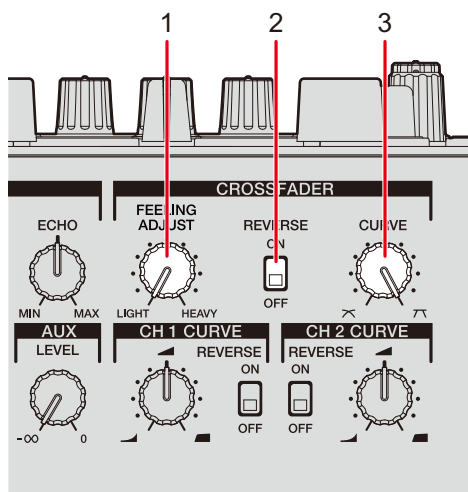
チャンネルフェーダーリバーブ機能のオン／オフを切り替えます。

チャンネルフェーダーを設定する

1 [CH 1/2 CURVE] ノブを回して、チャンネルフェーダーカーブを設定する

- [REVERSE] スイッチを [ON] に設定すると、チャンネルフェーダーの操作方向が逆になります。

CROSSFADER セクション



1. FEELING ADJUST ノブ

クロスフェーダーの負荷を調整します。

2. REVERSE スイッチ

クロスフェーダーリバーブ機能のオン／オフを切り替えます。

3. CURVE ノブ

クロスフェーダーカーブを設定します。

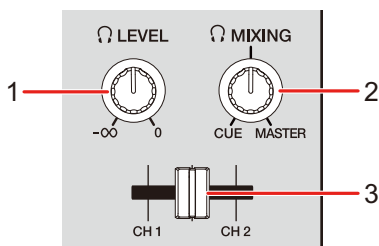
-  : クロスフェーダーを一方 (CH 1 側または CH 2 側) からスライドすると、もう一方に割り当てられている音が徐々に立ち上がります。
-  : クロスフェーダーを一方 (CH 1 側または CH 2 側) からスライドすると、もう一方に割り当てられている音が急峻に立ち上がります。

クロスフェーダーを設定する

- 1 **[CURVE]** ノブを回して、クロスフェーダーカーブを設定する
 - 2 **[FEELING ADJUST]** ノブを回して、クロスフェーダーの負荷を調整する
- **[REVERSE]** スイッチを **[ON]** に設定すると、クロスフェーダーの操作方向が逆になります。
 - UTILITY 設定の **[CROSSFADER CUT LAG]** で、クロスフェーダーの両端の音声を出力しない範囲（カットラグ）を設定できます（105 ページ）。

音声モニター

ヘッドホンセクション



1. **LEVEL ノブ**

ヘッドホンから出力する音量を調整します。

2. **MIXING ノブ**

ヘッドホン CUE フェーダーで選択しているチャンネルの音声と、マスターチャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。

- チャンネルの音声のみをモニターしたいときは **[CUE]** に、マスターチャンネルの音声のみをモニターしたいときは **[MASTER]** に合わせてください。

3. **ヘッドホン CUE フェーダー**

ヘッドホンから出力する CH 1 と CH 2 の音声の割合を調整します。

ヘッドホンで音声をモニターする

1 **[PHONES]** 端子にヘッドホンを接続する

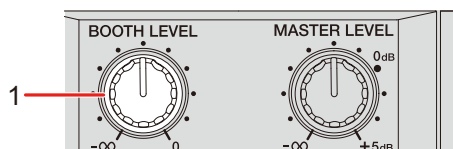
🔊 「出力端子に接続する」 (27 ページ)

2 **[MIXING]** ノブを回して、チャンネルとマスター音声の音量バランスを調整する

3 ヘッドホン **CUE** フェーダーを動かして、**CH 1** と **CH 2** の音声の割合を調整する

4 [🎧 LEVEL] ノブを回して、音量を調整する

ブースセクション



1. BOOTH LEVEL ノブ

ブースモニター音声の音量を調整します。

ブースモニターを使う

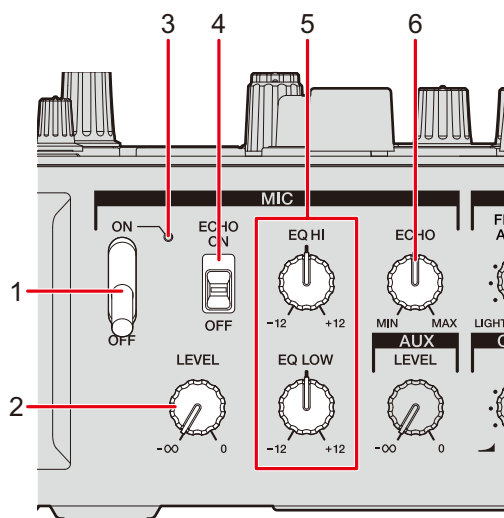
1 [BOOTH] 端子にブースモニター用の機器を接続する

🔌 「出力端子に接続する」(27 ページ)

2 [BOOTH LEVEL] ノブを回して、出力音声の音量を調整する

マイク

MIC セクション



1. マイクスイッチ

マイク音声出力のオン／オフを切り替えます。

2. LEVEL ノブ

〔MIC〕端子から入力する音量を調整します。

3. マイクインジケータ

マイク音声の出力設定を以下のように示します。

- 消灯：オフ
- 点灯：オン
- 点滅：オン（マイクエコーがオン）

4. ECHO スイッチ

マイクエコーのオン／オフを切り替えます。

5. EQ HI／LOW ノブ

〔MIC〕端子から入力する音声の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- 〔EQ HI〕：－12 dB～＋12 dB

— [EQ LOW] : - 12 dB ~ + 12 dB

6. ECHO ノブ

マイク音声に加えるエコーの音量を調整します。

マイクを使う

1 [MIC] 端子にマイクを接続する

🔊 「入力端子に接続する」(26 ページ)

2 マイクスイッチを [ON] に設定する

3 [LEVEL] ノブを回して、マイク音声の音量を調整する

- 右に回しすぎると、大音量で出力されます。ご注意ください。

4 [EQ HI]、[EQ LOW] ノブを回して、各音域の音質を調整する

5 マイクに音声を入力する

マイクエコーを使う

1 [MENU] 画面の [FX SETTING] をタッチする

エフェクトの設定画面が表示されます。

☰ 「MENU画面」 (15 ページ)

2 [MIC ECHO] をタッチする

[MIC ECHO] 画面が表示されます。

3 マイクエコーの拍数をタッチする



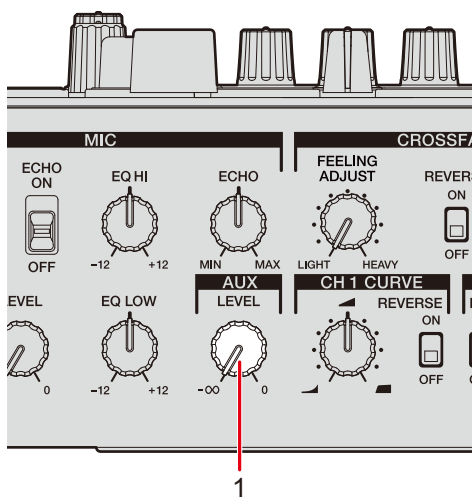
4 [ECHO] ノブを回して、エコーの音量を調整する

5 [ECHO] スイッチを [ON] に設定する

選択した拍数で、マイク音声にエコーがかかります。

AUX

AUX セクション



1. LEVEL ノブ

外部入力音声の音量を調整します。

AUX を使う

1 [AUX] 端子に外部入力機器を接続する

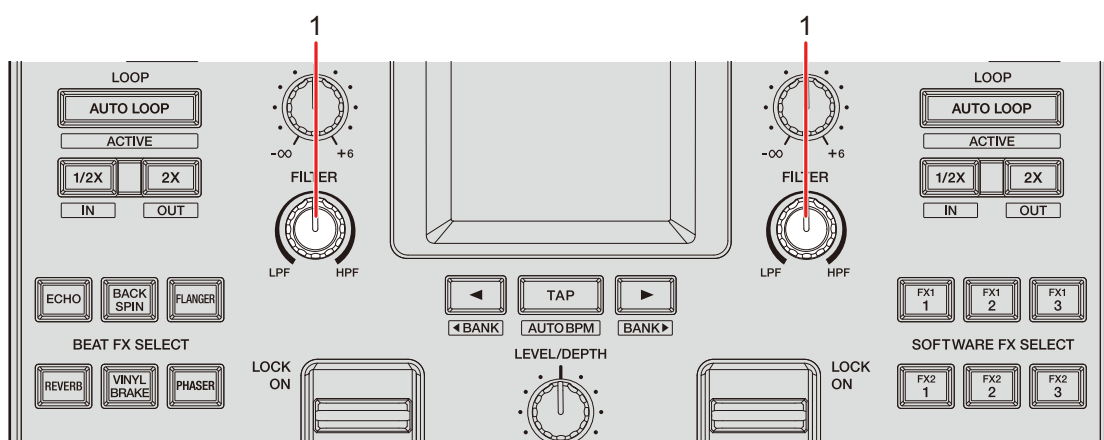
☛ 「入力端子に接続する」 (26 ページ)

2 [LEVEL] ノブを回して、入力音量を調整する

FILTER

FILTERやその他のエフェクトを加えます。

FILTER セクション



1. FILTER ノブ

FILTERやその他のエフェクトを調整します。

FILTERやその他のエフェクトを使う

ここでは、使用するFILTERやその他のエフェクトを本体表示部から指定する方法を例に説明します。

FILTERやその他のエフェクトは、設定ユーティリティの **[FX BANK]** タブで、**[FILTER]** のプルダウンリストから指定することもできます (61 ページ)。

1 **[MENU]** 画面で **[FX SETTING]** をタッチする

エフェクトの設定画面が表示されます。

🔘 「MENU画面」 (15 ページ)

2 [FILTER] をタッチする

[FILTER] 画面が表示されます。

3 使用するエフェクトをタッチする

4 [FILTER] ノブを回して、エフェクトを調整する

エフェクトの種類と設定方法

ノブの操作や、[MENU] の [FX SETTING] の設定画面で下記の内容を設定できます。

- サブパラメーターは [FX SETTING] の設定画面で設定します（63 ページ）。

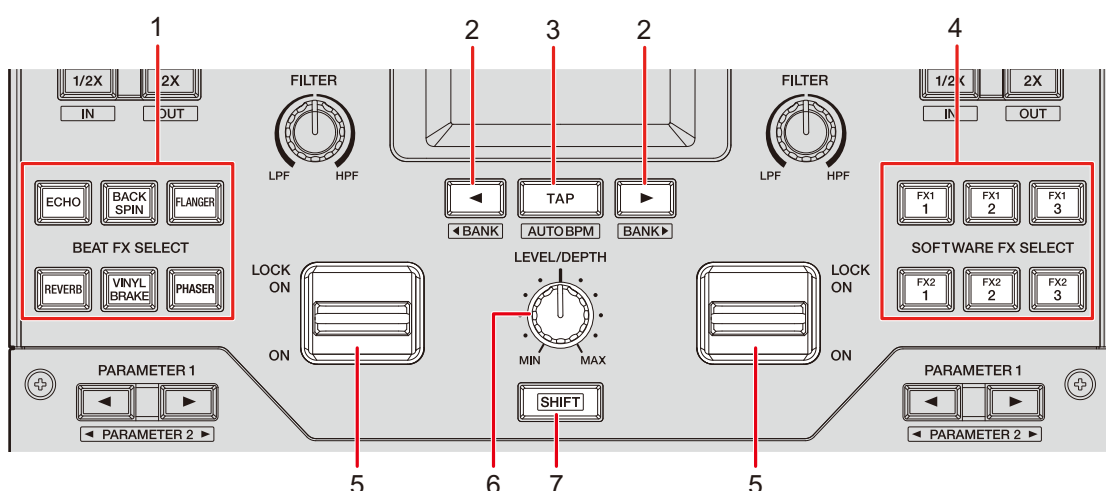
エフェクト／操作	説明
FILTER	フィルターを通した音声を出力します。
• FILTER:	左に回す：ローパスフィルターのカットオフ周波数を下げます。 右に回す：ハイパスフィルターのカットオフ周波数を上げます。
• サブパラメーター:	レゾナンス
DUB ECHO	ディレイ音を減衰させながら数回出力して、反響効果を加えます。
• FILTER:	左に回す：中音域に反響効果を加えます。 右に回す：高音域に反響効果を加えます。
• サブパラメーター:	フィードバック
NOISE	フィルターに通したホワイトノイズを、チャンネルの音声とミックスして出力します。
• FILTER:	左に回す：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数を下げます。 右に回す：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数を上げます。
• サブパラメーター:	ノイズの音量

エフェクト／操作	説明
PITCH	音程を変化させます。
• FILTER: 左に回す：音程を下げます。 右に回す：音程を上げます。 • サブパラメーター: ピッチの変化範囲：±1半音～±2オクターブ	
WIDE FILTER	フィルターを通した音声を出力します。
• FILTER: 左に回す：ローパスフィルターのカットオフ周波数を下げます。 右に回す：ハイパスフィルターのカットオフ周波数を上げます。 左または右に回しきる：音声を完全にカットします。 • サブパラメーター: レゾナンス	

BEAT FX / SOFTWARE FX

本機は、内蔵エフェクト（BEAT FX）用のボタンを6個搭載しており、それぞれのボタンにお好みの内蔵エフェクトを設定できます。また、DJソフトウェアのエフェクト（SOFTWARE FX）用のボタンも6個搭載しています。

エフェクトセクション



1. BEAT FX SELECT ボタン

BEAT FXを選択します。

2. BEAT ◀ / ▶ ボタン

エフェクトの拍数を設定します。

3. TAP ボタン

BPMを設定します。

4. SOFTWARE FX SELECT ボタン

DJソフトウェアのエフェクトを選択します。

5. エフェクトレバー

エフェクトを加えます。

- [ON]：エフェクトレバーを [ON] の位置に合わせている間、エフェクトがかかります。レバーを離すと中央の位置に戻り、エフェクトがオフになります。

- **[LOCK ON]** : **[LOCK ON]** の位置に合わせている間、エフェクトがかかります。エフェクトをオフにするには、レバーを中央の位置に戻してください。

6. **LEVEL/DEPTH** ノブ (55 ページ)

エフェクトを調整します。

7. **SHIFT** ボタン

BEAT FX / SOFTWARE FX を使用する

🔧 「BEAT FXの種類と設定方法」 (55 ページ)

1 使用したいエフェクトがアサインされている **[BEAT FX SELECT]** または **[SOFTWARE FX SELECT]** ボタンを押す

- 同時に複数の **[SOFTWARE FX SELECT]** ボタンを押すと、複数の SOFTWARE FX を選択できます。
- 内蔵エフェクト (BEAT FXのうち1種類) と SOFTWARE FX (6種類) を選択して、複数のエフェクト (最大7種類) を同時に加えることができます。
- **[BEAT FX SELECT]** ボタンにアサインされているエフェクトを変更できます (61 ページ)。

2 **[TAP]** ボタンで、**BPM** を設定する

- **[TAP]** ボタンを押すと、手動でBPMを設定できます。
- **[TAP]** ボタンを押しながら **[BEAT ◀]** または **[BEAT ▶]** ボタンを押すと、BPM 値を1単位で調整できます。
- **[TAP]** と **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[BEAT ◀]** または **[BEAT ▶]** ボタンを押すと、BPM 値を0.1単位で調整できます。
- **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[TAP]** ボタンを押すと、自動でBPMを取得します。

3 **[BEAT ◀]** または **[BEAT ▶]** ボタンを押して、エフェクトを同期させる拍数の倍率を設定する

4 **[LEVEL/DEPTH]** ノブを回して、エフェクトを調整する

- 左に回しきると、原音が出力されます。

5 エフェクトレバーを [ON] または [LOCK ON] に合わせる

エフェクトレバーを操作したチャンネルの音声に、選択したエフェクトを加えます。

- BEAT FXは、[MENU] 画面からサブパラメーターを設定することもできます。

BEAT FXの種類と設定方法

ボタンやノブの操作、[MENU] の [FX SETTING] の設定画面で下記の内容を設定できます。

- サブパラメーターは [FX SETTING] の設定画面で設定します (63 ページ)。

BEAT FX / 操作	説明
ECHO ^①	拍に合わせて、ディレイ音を減衰させながら数回出力します。
• BEAT ◀/▶:	BPMの1 拍に対してのディレイタイム (倍率) : 1/32~16拍
• LEVEL/DEPTH :	原音とエフェクト音のバランスとフィードバック
• サブパラメーター :	HPFのカットオフ周波数 : 1~9
DUCKING ECHO ^①	クロスフェーダーまたはチャンネルフェーダーの操作によって無音になったときに、ディレイ音を減衰させながら数回出力します。
• BEAT ◀/▶:	BPMの1 拍に対してのディレイタイム (倍率) : 1/32~16拍
• LEVEL/DEPTH :	原音とエフェクト音のバランスとフィードバック
• サブパラメーター :	HPFのカットオフ周波数 : 1~9
ECHO OUT ^①	入力音を無音にし、ディレイ音を減衰させながら数回出力します。
• BEAT ◀/▶:	BPMの1 拍に対してのディレイタイム (倍率) : 1/32~16拍
• LEVEL/DEPTH :	原音とエフェクト音のバランスとフィードバック
• サブパラメーター :	HPFのカットオフ周波数 : 1~9

BEAT FX / 操作	説明
SPIRAL ¹	入力音に残響効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶: BPMの1 拍に対してのディレイタイム（倍率）：1/16～16拍 • LEVEL/DEPTH: 原音とエフェクト音のバランスとフィードバック • サブパラメーター: スピード：1～9	
HELIX	入力音を記録し、記録した音を設定した時間的パラメーターに合わせて繰り返し出力します。
• BEAT ◀ / ▶: BPMの1 拍に対してのエフェクト時間（倍率）：1/16～16拍 • LEVEL/DEPTH: 音を重ねる割合 • [LEVEL/DEPTH] ノブを左に回し切ってから右に回すと、減衰率も変化させることができます。右に回し切ると、出力音が固定されます。 • サブパラメーター: スピード：1～9	
DELAY ¹	拍に合わせて、ディレイ音を1回出力します。
• BEAT ◀ / ▶: BPMの1 拍に対してのディレイタイム（倍率）：1/32～4拍 • LEVEL/DEPTH: 原音とエフェクト音のバランス • サブパラメーター: スウィング：1～9	
REVERB ¹	入力音に残響効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶: 残響エフェクトの度合い：1～100% • LEVEL/DEPTH: 原音とエフェクト音のバランス • サブパラメーター: HPFのカットオフ周波数：1～9	

BEAT FX / 操作	説明
BACK SPIN	再生中の入力音を高速で逆回転させたような効果を周期的に加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対するエフェクト周期（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランスと再生速度の変化量
• サブパラメーター:	スピン速度：1~9
ONE-SHOT SPIN	再生中の入力音を高速で逆回転させたような効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対しての逆回転の再生時間（倍率）：1/16拍~64拍
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランスと再生速度の変化量
• サブパラメーター:	ブレイク速度：1~9
VINYL BRAKE	入力音の再生速度を徐々に遅くし、最終的に停止する効果を周期的に加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対するエフェクト周期（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランスと再生速度の変化量
• サブパラメーター:	ブレイク速度：1~9
ONE-SHOT BRAKE	入力音の再生速度が徐々に遅くなり、再生がストップします。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対してのエフェクト時間（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランスと再生速度の変化量
• サブパラメーター:	スピン速度：1~9

BEAT FX / 操作	説明
FLANGER	拍に合わせて、周期的なフランジャー効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• サブパラメーター:	フランジャー効果の深さ：1~9
PHASER	拍に合わせて、周期的なフェイザー効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• サブパラメーター:	フェイザー効果の深さ：1~9
HP FILTER	拍に合わせて、周期的にハイパスフィルターのカットオフ周波数が変化します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• サブパラメーター:	エフェクト効果を細かく揺らす周期：1~9
LP FILTER	拍に合わせて、周期的にローパスフィルターのカットオフ周波数が変化します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• サブパラメーター:	エフェクト効果を細かく揺らす周期：1~9
TRANS	拍に合わせて、音声を周期的にカットします。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1 拍に対してのカットする周期（倍率）：1/16~16拍
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランスとデューティ
• サブパラメーター:	デューティ：1~9

BEAT FX / 操作	説明
KILL	入力音を徐々に減衰し、無音にします。
• BEAT ◀/▶: BPMの1拍に対しての減衰時間（倍率）：1/32~64拍 • LEVEL/DEPTH: 原音とエフェクト音のバランスと減衰時間 • [LEVEL/DEPTH] ノブを右に回し切ると、[BEAT ◀]、[BEAT ▶] ボタンで指定した減衰時間をかけて無音になります • サブパラメーター: 減衰カーブ：1~9	
ROLL	エフェクトをオンにしたときの入力音を記録し、記録した音を設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。
• BEAT ◀/▶: BPMの1拍に対してのエフェクト時間（倍率）：1/16~16拍 • LEVEL/DEPTH: 原音とエフェクト音のバランスとミュート量 • サブパラメーター: ミュート量：1~9	
FADER PITCH ²	チャンネルフェーダーに連動して入力音の音程を変化させます。
• BEAT ◀/▶: ピッチの最大変化量（オクターブ）：-2、-1、+1、+2 • LEVEL/DEPTH: 原音とエフェクト音のバランス • サブパラメーター: スケール：LINEAR、CHROMATIC、MAJOR、MINOR、MAJOR P、MINOR P、4STEP	
FADER SYNTH (SINE/SAW/SQUARE) ²	基底発信周波数の音源としてSYNTH音を出力します。
• BEAT ◀/▶: 基底発信周波数の段階：-3~+3 • LEVEL/DEPTH: エフェクトの音量 • サブパラメーター: スケール：AUTO SCALE、MAJOR、MINOR、MINOR H、JAPANESE、CHINESE、HAWAIIAN、RYUKYU、2OCT ANALOG	

¹ エフェクト音はモニターできません。

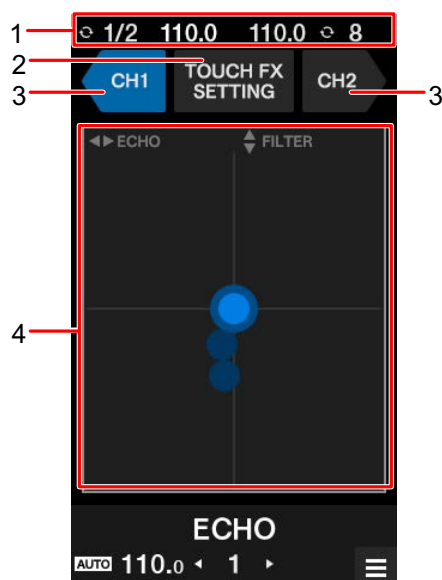
² エフェクトをオンにしているときは、チャンネルフェーダーで音量調整できません。

TOUCH FX を使う

エフェクトを画面から設定し、操作します。

1 [MENU] 画面で、[TOUCH FX] をタッチする

TOUCH FX画面が表示されます。



1. 情報表示部：BPMとループ拍を表示します。
2. **TOUCH FX SETTING**：[TOUCH FX SETTING] 画面を表示します。
[TOUCH FX SETTING] 画面では、使用するエフェクトを設定します。
 ー [PRESET FX]：プリセットされたエフェクトをコントロールします。
 ー [SELECTED FX]：選択しているエフェクトをコントロールします。
3. **CH 1 / CH 2**：エフェクトを設定するチャンネルを選択します。
4. **TOUCH FX操作部**：エフェクトのパラメーターをコントロールします。

☰ 「MENU画面」 (15 ページ)

- 2 [CH 1] または [CH 2] をタッチして、エフェクトを加えるチャンネルを選択する
- 3 **TOUCH FX操作部**をタッチまたはスライドして、エフェクトを調整する

選択されているエフェクトがオンになり、タッチしている位置に応じてエフェクトの値が変化します。

FX BANK を使う

[FILTER] ノブ、[BEAT FX SELECT]、[SOFTWARE FX SELECT] ボタンなどにアサインされているエフェクトの設定をFX BANKとして保存したり、保存したFX BANKをロードできます。

❖ 操作制限について

本機にPC／Macが2台接続されているときは、以下の操作が制限されます。

- FX BANK をロードできません。
- [BEAT FX SELECT] ボタンを押しながら [BROWSE] ノブを回す、または [MENU] 画面の [FX SETTING] を変更できません。
- BEAT FXのエフェクトがデフォルト設定（[BEAT FX SELECT] ボタン上に表示されているエフェクト）に戻ります。

以下の状態のときは、上記の制限はかかりません。

- [CH 1] と [CH 2] 両方の入力切替えスイッチで [A] が選択されているとき
- [CH 1] と [CH 2] 両方の入力切替えスイッチで [B] が選択されているとき

FX BANK を設定する

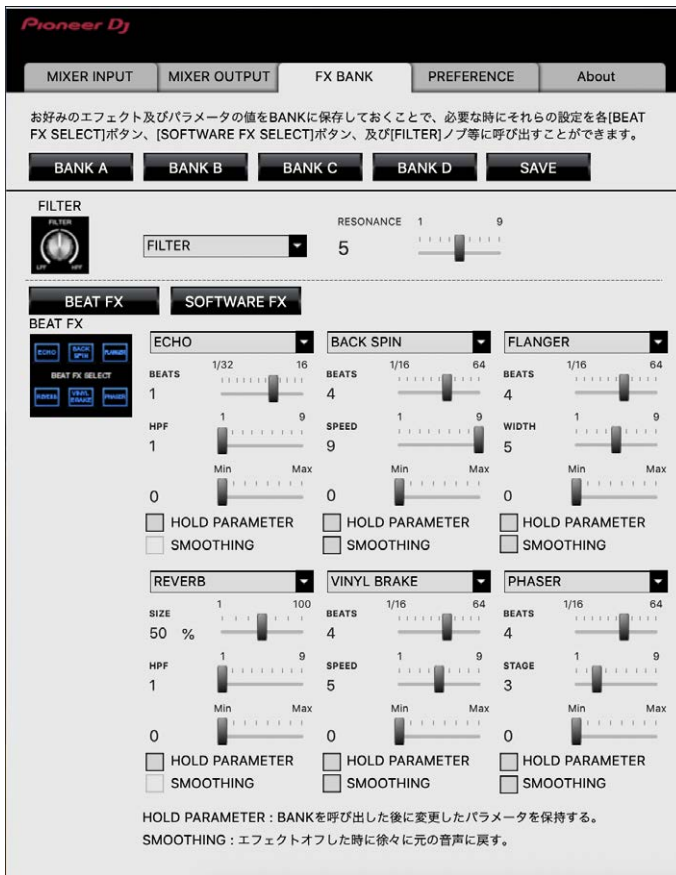
FX BANK は4つまで設定できます。設定ユーティリティまたは [MENU] 画面の [FX SETTING] から設定します。

❖ 設定ユーティリティで設定する

🔘 「設定ユーティリティを表示する」（19 ページ）

1 [FX BANK] タブをクリックする

- 2 [BANK A]、[BANK B]、[BANK C]、または [BANK D] をクリックして、設定を保存する FX BANK を選択する



- 3 [FILTER] のプルダウンリストから、[FILTER] ノブにアサインする FILTER やその他のエフェクトを選択する

☞ 「エフェクトの種類と設定方法」(51 ページ)

- 4 [BEAT FX] または [SOFTWARE FX] をクリックする

- 5 プルダウンリストから、各ボタンにアサインするエフェクトを選択する

☞ 「BEAT FXの種類と設定方法」(55 ページ)

6 必要に応じて、[HOLD PARAMETER] または [SMOOTHING] にチェックを入れる

- [HOLD PARAMETER] : BANK を呼び出した後に変更したパラメータを保持します。
- [SMOOTHING] : エフェクトをオフにした後に、徐々に元の音声に戻します。

7 [SAVE] をクリックする

FX BANKが保存されます。

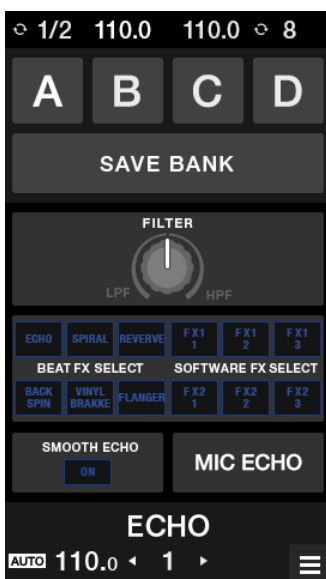
❖ エフェクトの設定画面で設定する

1 [MENU] 画面で [FX SETTING] をタッチする

エフェクトの設定画面が表示されます。

☰ 「MENU画面」 (15 ページ)

2 [A]、[B]、[C]、[D] のいずれかをタッチしてFX BANKをロードする



- 3 **[FILTER]** をタッチして、**[FILTER]** ノブにアサインする **FILTER** やその他のエフェクトを設定する
- 4 **[BEAT FX SELECT / SOFTWARE FX SELECT]** をタッチして、アサインする **BEAT FX** を設定する
 - エフェクトをタッチすると、詳細設定画面が表示されます。
 - **SOFTWARE FX**の種類は変更できません。DJソフトウェアを使って、エフェクトの種類を変更してください。
- 5 **[SMOOTH ECHO]** をタッチして、パラメーターを設定する
- 6 **[MIC ECHO]** をタッチして、パラメーターを設定する
- 7 **[BANK SAVE]** をタッチする

FX BANK を保存します。

エフェクトを変更する

下記のいずれかの方法で、**[BEAT FX SELECT]** ボタンにアサインするエフェクトの種類を変更できます。

- ー 設定ユーティリティのプルダウンリストを使って変更する (61 ページ)
- ー 本機の **[BEAT FX SELECT]** ボタンを押しながら **[BROWSE]** ノブを回す
- ー エフェクトの設定画面から変更する (63 ページ)

FX BANK をロードする

本機のボタン操作、または **[MENU]** 画面の **[FX SETTING]** からロードできます。

❖ 本機のボタンを使ってロードする

- 1 **[SHIFT]** ボタンを押しながら、**[BEAT ◀]** または **[BEAT ▶]** ボタンを押す

FX BANK A、B、C、Dのうち、以下をロードします。

- **[BEAT ◀]**：現在設定されているFX BANKの前のFX BANKをロードします。
- **[BEAT ▶]**：現在設定されているFX BANKの次のFX BANKをロードします。
- DJソフトウェアでBANKが設定されている場合は、SOFTWARE FXもロードされます。

❖ エフェクトの設定画面を使ってロードする

1 **[MENU]** 画面で **[FX SETTING]** をタッチする

エフェクトの設定画面が表示されます。

☐ 「MENU画面」 (15 ページ)

2 **[A]**、**[B]**、**[C]**、**[D]** のいずれかをタッチする

FX BANKがロードされます。

FX TRIGGER モードを使う

FX TRIGGER モードを使うと、本機を PC / Mac に接続していないときでも、パフォーマンスパッドを使って BEAT FX を加えることができます。

それぞれのパフォーマンスパッドにあらかじめパラメーターの値が設定されており、パフォーマンスパッドを押すだけでエフェクトを加えることができます。

- FX TRIGGER モードは、BEAT FX を選択しているときに使用できます。

1 入力切替えスイッチを [LINE] または [PHONO] に設定する

2 パフォーマンスパッドを押す

パッドを押している間、パッドに割り当てられている拍数の BEAT FX がかけられます。

例：[ECHO] が選択されているとき

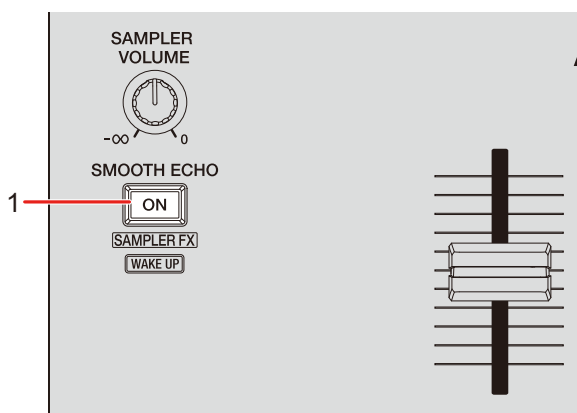
PAD 1 1/32 拍	PAD 2 1/16 拍	PAD 3 1/8 拍	PAD 4 1/4 拍
PAD 5 1/3 拍	PAD 6 1/2 拍	PAD 7 3/4 拍	PAD 8 1 拍

- パフォーマンスパッドを離すと、BEAT FX が停止します。

SMOOTH ECHO

SMOOTH ECHO を使うと、簡単な操作で、再生中の音声にエコーを加えることができます。

SMOOTH ECHO セクション



1. SMOOTH ECHO ON ボタン

SMOOTH ECHO のオン／オフを切り替えます。

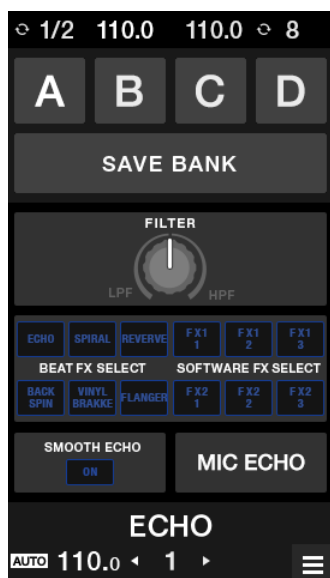
SMOOTH ECHO を使う

1 [MENU] 画面の [FX SETTING] をタッチする

エフェクトの設定画面が表示されます。

☐ 「MENU画面」 (15 ページ)

2 [SMOOTH ECHO] をタッチする



3 エコーを加える操作を選択する

- **[CROSSFADER]** : クロスフェーダーを反対方向に動かして無音にしたときにエコーを加えます。
- **[CH FADER]** : チャンネルフェーダーを使って無音にしたときにエコーを加えます。
- **[HOT CUE]** : DJソフトウェア使用時、ホットキューを実行したときにエコーを加えます。
- **[GATE CUE]** : Serato DJ ProにてGATE CUEモード使用時に、パフォーマンスパッドから手を離して音声ミュートされたときにエコーを加えます。
- **[SILENT CUE]** : DJソフトウェア使用時、サイレントキューを実行したときにエコーを加えます。
- **[LOAD]** : DJソフトウェア使用時、楽曲のロードを実行したときにエコーを加えます。

4 パラメーターを設定する

- **[BEATS]** : エコーの拍数を選択します。
- **[LEVEL]** : エコーの音量を調整します。

- **[Number of Beats to trigger(by Crossfader)]** : エコーが有効になるまでの拍数を設定します。

5 **[SMOOTH ECHO ON]** ボタンを押して、**SMOOTH ECHO** をオンにする

SMOOTH ECHO がオンになるとボタンが点灯します。

6 エコーを加える操作を実行する

拍に合わせて、ディレイ音を減衰させながら数回出力します。

ループを使う

ループを自動設定する

1 再生中に [AUTO LOOP] ボタンを押す

ボタンを押した位置からループ再生を開始します。

ループを手動設定する

1 再生中に、ループ再生を開始する位置（ループインポイント）で [SHIFT] ボタンと [1/2X] ボタンを押す

2 ループ再生を終了する位置（ループアウトポイント）で [SHIFT] ボタンと [2X] ボタンを押す

設定した区間のループ再生を開始します。

ループを半分の長さにする

1 ループ再生中に [1/2X] ボタンを押す

ボタンを押すごとに、ループの長さが半分にになります。

ループを2倍の長さにする

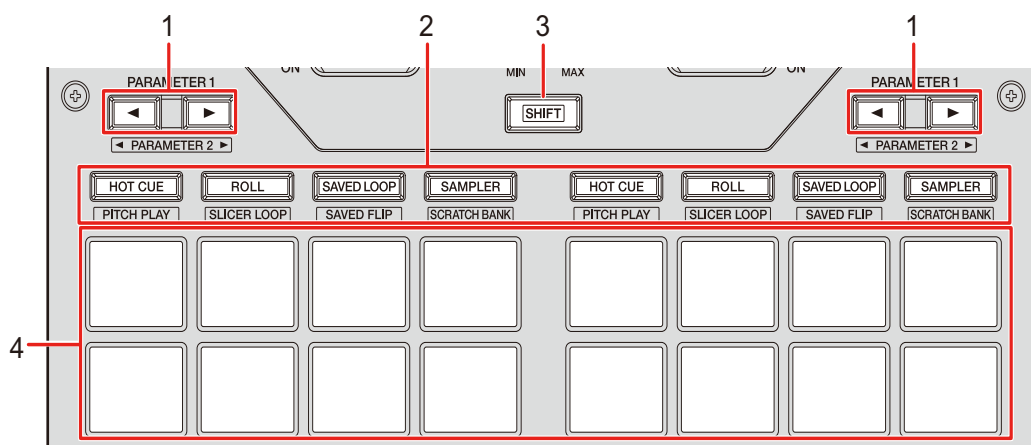
1 ループ再生中に [2X] ボタンを押す

ボタンを押すごとに、ループの長さが倍になります。

パフォーマンスパッドの操作

DJソフトウェアと組み合わせて使用するとき、本機のパフォーマンスパッドを使ってさまざまな機能を使用できます。

パフォーマンスパッドセクション



1. PARAMETER ◀/▶ ボタン

設定を切り替えます。

2. パッドモードボタン

Serato DJ Pro と組み合わせるとき：

操作	HOT CUE ボタン	ROLL ボタン	SAVED LOOP ボタン	SAMPLER ボタン
押す	ホットキュー	ロール	セーブドループ	サンプラー
SHIFT ボタン + 押す	ピッチプレイ	スライサーループ	セーブドフリップ	スクラッチバンク
2 回押す	ゲートキュー	キューループ	オートループ	トランスポート
SHIFT ボタン +2 回押す	ユーザーモード 1	ユーザーモード 2	ユーザーモード 3	ユーザーモード 4

パフォーマンスパッドの操作

rekordbox と組み合わせるとき：

操作	HOT CUE ボタン	ROLL ボタン	SAVED LOOP ボタン	SAMPLER ボタン
押す	ホットキュー	パッド FX1	ビートジャンプ	サンプラー
SHIFT ボタン + 押す	キーボード	パッド FX2	ビートループ	キーシフト

3. SHIFT ボタン

4. パフォーマンスパッド

Serato DJ Pro

パッドモードボタン（[HOT CUE]、[ROLL]、[SAVED LOOP]、[SAMPLER]）を押してそれぞれの機能を切り替えます。

コンボパッドモード

1つのパッドモードボタンを押しながら、もう1つのパッドモードボタンを押すと、2つのパッドモードを同時に使用できます（対応モードは、ホットキュー、ロール、セーブドループ、サンプラーの4種類）。

1つ目に押したパッドモードが上段の4つのパフォーマンスパッドに割り当てられ、2つ目に押したパッドモードが下段の4つのパフォーマンスパッドに割り当てられます。

ホットキューモード

パフォーマンスパッドを押すと、ホットキューポイントを瞬時に呼び出し、再生を開始します。

- 設定できるホットキューは、1トラックにつき8個までです。

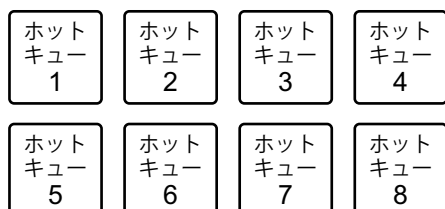
1 [HOT CUE] ボタンを押す

ホットキューモードに切り替わります。

2 再生中または一時停止中に、ホットキューポイントを設定したい位置でいずれかのパフォーマンスパッドを押す

ホットキューポイントが設定されます。

- ホットキューは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられます。



3 ホットキューポイントが設定されているいずれかのパフォーマンスパッドを押す

ホットキューポイントから再生を開始します。

- **[SHIFT]** ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、設定されているホットキューポイントを削除します。

ロールモード

パフォーマンスパッドを押している間、パッドに割り当てられている拍数のループロール再生を行います。

1 **[ROLL]** ボタンを押す

ロールモードに切り替わります。

2 **[PARAMETER ◀]** または **[PARAMETER ▶]** ボタンを押す

ボタンを押すごとに、パフォーマンスパッドに割り当てる拍数が以下のように切り替わります。

- 1/32 から 4 拍
- 1/16 から 8 拍
- 1/8 から 16 拍
- 1/4 から 32 拍

パフォーマンスパッドの操作

例：1/8 から16拍を設定した場合、各パフォーマンスパッドには以下のように拍数が割り当てられます。

1/8 拍	1/4 拍	1/2 拍	1 拍
2 拍	4 拍	8 拍	16 拍

Serato DJ Proの画面には、設定されている拍数が表示されます。



3 ループ再生したい拍数が設定されているパフォーマンスパッドを押す

パッドを押している間、設定されている拍数でループロール再生を行います。

- ループロール再生中に **[1/2X]** または **[2X]** ボタンを押すと、再生中のループロールの拍数を変更できます。
 - ループロール再生中は、バックグラウンドで元のリズムを保ったまま通常の再生を続けます。
-
- パフォーマンスパッドを離すとループロール再生が解除され、解除するまでに経過した位置から通常の再生を開始します。

セーブドループモード

Serato DJ Proのループスロットにループを保存したり、保存したループを呼び出します。

1 **[SAVED LOOP]** ボタンを押す

セーブドループモードに切り替わります。

2 ループ再生中に、いずれかのパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドの操作

Serato DJ Proのループスロットにループが割り当てられます。



3 [SHIFT] ボタンを押しながら、ループが設定されているいずれかのパフォーマンスパッドを押す

ループの先頭から再生を開始します。

- ループ再生中に [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押すと、再生中のループの長さを変更できます。呼び出したループの長さを変更した場合は、設定が上書き保存されます。
- ループ再生中に [SHIFT] ボタンを押しながら [1/2X] または [2X] ボタンを押すと、ループの長さを変えずにループを移動できます。呼び出したループを移動した場合は、設定が上書き保存されます。

- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生が解除されます。

サンプラーモード

パフォーマンスパッドを使って、サンプラーのサンプラーズロットにロードされたトラックの再生を開始します。

1 Serato DJ Proの画面で、[SAMPLER] パネルを表示する

2 本機の [SAMPLER] ボタンを押す

サンプラーモードに切り替わります。

3 [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、サンプラーのバンクを切り替える

4 つ (A、B、C、D) のバンクが切り替わります。

- それぞれのバンクには8つのスロットがあります。

4 Serato DJ Proの画面で、トラックを[SAMPLER]パネルの各スロットにドラッグアンドドロップしてロードする

サンプラーの設定とロードしたトラックが保存されます。

5 再生したいスロット（トラック）が設定されているパフォーマンスパッドを押す

スロット音声の再生を開始します。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。



6 [SAMPLER VOLUME] ノブを回して、サンプラー音声の音量を調節する

- Serato DJ Proのサンプラーのモードによって再生方法が異なります。詳細については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（7 ページ）。
- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、スロット音声の再生を停止します。

ピッチプレイモード

ピッチプレイとは、Pitch 'n Time DJの機能です。

1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[HOT CUE] ボタンを押す

ピッチプレイモードに切り替わります。

2 [SHIFT] ボタンを押しながら、パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに設定されているホットキューポイントが選択されます。

3 パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドの操作

パフォーマンスパッドに割り当てられているピッチで、選択したホットキューポイントから再生を開始します。

- ピッチプレイ中に、[**PARAMETER ◀**] または [**PARAMETER ▶**] ボタンを押すと、ピッチのレンジを変更できます。ボタンを押すごとに、アップレンジ、ミドルレンジ、ダウンレンジが切り替わります。

— アップレンジ：

+4	+5	+6	+7
0	+1	+2	+3

— ミドルレンジ：

0	+1	+2	+3
-4	-3	-2	-1

— ダウンレンジ：

-3	-2	-1	0
-7	-6	-5	-4

- [**SHIFT**] ボタンを押しながら [**PARAMETER ◀**] または [**PARAMETER ▶**] ボタンを押すと、ピッチのレンジを半音単位でシフトできます。

スライサーモード

指定した範囲を8分割し、分割したそれぞれの区間を各パフォーマンスパッドに割り当てます。

パフォーマンスパッドを押している間、パッドに割り当てられている区間の音声をループ再生します。



- スライサーモードは、ビートグリッドが設定されていないトラックでは使用できません。ビートグリッドの設定方法については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（7ページ）。

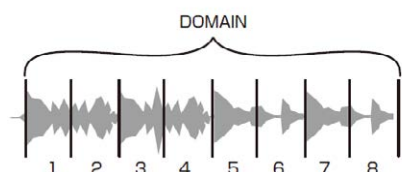
1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[ROLL] ボタンを押す

スライサーモードに切り替わります。

2 [SHIFT] ボタンを押しながら、[PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、8分割する範囲（DOMAIN）を指定する

- ボタンを押すごとに、ボタンを押した位置から DOMAIN が以下のように設定されます。
 - 2拍
 - 4拍
 - 8拍
 - 16拍
 - 32拍
 - 64拍
- DOMAIN を8分割した各区間は、各パフォーマンスパッドに以下のように割り当てられます。

分割された区間1～8:



パフォーマンスパッドの操作

パフォーマンスパッドへの割り当て:



3 [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、 QUANTIZATIONを設定する

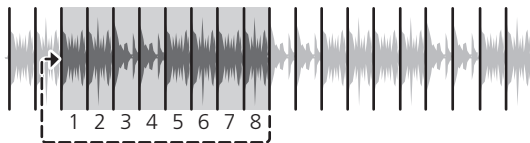
ボタンを押すごとに、QUANTIZATIONが以下のように設定されます。

- 1/8 (区間の先頭から 1/8 の長さをループ再生する)
- 1/4 (区間の先頭から 1/4 の長さをループ再生する)
- 1/2 (区間の先頭から 1/2 の長さをループ再生する)
- 1 (区間全体をループ再生する)

4 ループ再生したい区間が設定されているパフォーマンスパッドを 押す

パッドを押している間、ループ再生を行います。

- スライサーループ再生中は、バックグラウンドで元のリズムを保ったまま通常の再生を続けます。
- パフォーマンスパッドを離すとスライサーループ再生が解除され、解除するまでに経過した位置から通常の再生を開始します。
- 再生位置が DOMAIN の最後まで進むと、先頭 (区間 1) に戻ります。



セーブドフリップモード

Serato Flip は、ホットキュー操作などのシーケンスを記録したり、呼び出したりする機能です。

本機のパフォーマンスパッドを使って、Flip を保存したり、再生できます。

❖ Flip をスロットへ保存する

1 Serato DJ Pro を使って、Flip を作成する

- Flip の作成方法については、Serato DJ Pro のソフトウェアマニュアルを参照してください（7 ページ）。

2 [SHIFT] ボタンを押しながら、[SAVED LOOP] ボタンを押す

セーブドフリップモードに切り替わります。

3 Flip を保存したいスロットが設定されているパフォーマンスパッドを押す

Flip がスロットに保存されます。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

スロット1	スロット2	スロット3	スロット4
スロット5	スロット6	スロット7	スロット8

- スロットに空きがないときは、Flip を保存できません。Serato DJ Pro のスロット画面で、スロットに設定されている Flip を削除してください。

❖ Flip を呼び出して再生する

1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[SAVED LOOP] ボタンを押す

セーブドフリップモードに切り替わります。

2 再生したいスロット (Flip) が設定されているパフォーマンスパッドを押す

Flip を呼び出し、先頭から再生を開始します。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。



- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、Flip を呼び出しますが、先頭へは移動しません。トラックの再生位置がFlipの先頭に達すると、Flipの再生が開始されます。
- Flip再生中にパフォーマンスパッドを押すと、再生中のFlipの先頭へ移動します。
- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、Flipの再生を終了して通常の再生に戻ります。

スクラッチバンクモード

スクラッチバンクの音声をデッキにロードして使用します。

1 **Serato DJ Pro**の画面で、**[SCRATCH BANK]** パネルを表示する

2 **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[SAMPLER]** ボタンを押す

スクラッチバンクモードに切り替わります。

3 ロードしたいスクラッチバンクが設定されているスロットのパフォーマンスパッドを押す

スクラッチバンクの音声ロードされます。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

スロット1	スロット2	スロット3	スロット4
スロット5	スロット6	スロット7	スロット8

ゲートキューモード

ホットキューを、ゲート動作で再生できます。

1 **[HOT CUE]** ボタンを2回続けて押す

ゲートキューモードに切り替わります。

2 再生したいホットキューが設定されているパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドを押している間、ホットキューの音声を再生します。

パフォーマンスパッドの操作

- ホットキューは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

ホット キュー 1	ホット キュー 2	ホット キュー 3	ホット キュー 4
ホット キュー 5	ホット キュー 6	ホット キュー 7	ホット キュー 8

- パフォーマンスパッドを離すと音をミュートします。再度パフォーマンスパッドを押すと、ホットキューの先頭から再生を開始します。

キューループモード

1 [ROLL] ボタンを2回続けて押す

キューループモードに切り替わります。

2 再生中に、ループインポイントを設定したい位置でパフォーマンスパッドを押す

ホットキュースロットにループインポイントを設定し、ループ再生を開始します。

- ループインポイントは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられます。

ループ 1	ループ 2	ループ 3	ループ 4
ループ 5	ループ 6	ループ 7	ループ 8

- ループの長さは、オートループの拍数設定が適用されます。
- キューループでは、ホットキューポイントがループインポイントとして利用されます。ホットキューポイントが設定されているパフォーマンスパッドを押すと、設定されているホットキューポイントからループ再生を開始します。
- ループ再生中に [PARAMETER ◀] または [1/2X] ボタンを押すと、押すごとにループの長さを半分に変更できます。
- ループ再生中に [PARAMETER ▶] または [2X] ボタンを押すと、押すごとにループの長さを倍に変更できます。

パフォーマンスパッドの操作

- **[SHIFT]** ボタンを押しながらもう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループインポイントに戻って再生を開始します。
- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生を解除します。

オートループモード

パフォーマンスパッドを押すと、パフォーマンスパッドに割り当てられている拍数のループが設定され、パフォーマンスパッドを離してもループ再生を続けます。

1 **[SAVED LOOP]** ボタンを2回続けて押す

オートループモードに切り替わります。

2 再生中にパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに割り当てられてる拍数のループ再生を開始します。

- ロールの拍数と同様に、Serato DJ Proの画面には、設定されている拍数が表示されます（74 ページ）。
- ループ再生中に **[PARAMETER ◀]** または **[PARAMETER ▶]** ボタンを押すと、再生中のループの長さを変更できます（71 ページ）。
- ループ再生中に **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[PARAMETER ◀]** または **[PARAMETER ▶]** ボタンを押すと、ループの長さを変えずにループを移動できます。
- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生を解除します。

トランスポートモード

ターンテーブルやマルチプレーヤーを使用せずに、パフォーマンスパッドを使ってトラックをコントロールします。

トランスポートモードでは、パフォーマンスパッドに以下の機能が割り当てられています。

パフォーマンスパッド No.			
1	2	3	4
ピッチバンド (-)	ピッチバンド (+)	ピッチナッジ (-)	ピッチナッジ (+)
5	6	7	8
キーロック	シンク	テンプ キュー	再生/停止

1 [SAMPLER] ボタンを2回続けて押す

トランスポートモードに切り替わります。

2 パフォーマンスパッドを押す

- **1 / 2**：一時的にピッチを調整します。
- **3 / 4**：永続的にトラックをナッジしてピッチを調整します。
[SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッド3または4を押すと、キーがリセットされます。
- **5**：キーロック機能のオン／オフを切り替えます。
キーロック機能がオンのとき、トラックのテンポを変更しても音程は変わりません。音声をデジタル加工するため音質が悪くなります。
[SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッド5を押すと、Serato DVSの再生モードがインターナルモードとレラティブモードで切り替わります。
- **6**：シンク機能をオンします。
Serato DVSの再生モードがレラティブモードのときは、複数のデッキのトラックとテンポ（ピッチ）を自動で合わせます。
Serato DVSの再生モードがインターナルモードのときは、複数のデッキのトラックとテンポ、ビートグリッドを自動で合わせます。
Serato DVSの再生モードがアブソリュートモードのときは、シンク機能は使用できません。

パフォーマンスパッドの操作

[SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッド6を押すと、シンク機能を解除します。

- **7** : テンポラリーキューポイントを設定、呼び出し、再生します。
一時停止中に押すとテンポラリーキューポイントを設定します。
再生中に押すとテンポラリーキューポイントに戻り、一時停止します（バックキュー）。
テンポラリーキューポイントに戻ったあとに押すと、ボタンを押し続けている間再生を続けます（キューサンプラー）。キューサンプラー中にパフォーマンスパッド8を押すと、そのまま続けて再生します。
[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、トラックリストの1つ前のトラックをロードします（プレビアストラック）。現在の再生位置がトラックの先頭でないときは、トラックの先頭に戻ります。
- **8** : トラックを再生／一時停止します。
[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、テンポラリーキューポイントに戻って再生を続けます（スタッター）。

rekordbox

パッドモードボタン（[HOT CUE]、[ROLL]、[SAVED LOOP]、[SAMPLER]）を押してそれぞれの機能を切り替えます。

ホットキューモード

パフォーマンスパッドを押すと、ホットキューポイントを瞬時に呼び出し、再生を開始します。

- 設定できるホットキューは、1トラックにつき16個までです。
- 操作手順は、Serato DJ Proと同様です。「ホットキューモード」（73 ページ）を参照してください。
- 各ホットキューは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられます。

ホット キュー A/I	ホット キュー B/J	ホット キュー C/K	ホット キュー D/L
ホット キュー E/M	ホット キュー F/N	ホット キュー G/O	ホット キュー H/P

- [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押すと、ホットキュー A～HとI～Pを切り替えると同時に、rekordboxのデッキ画面のホットキュー表示エリアを切り替えます。

パッドFXモード

パフォーマンスパッドの操作で、エフェクトを加えます。

1 [ROLL] ボタンを押す

パッドFXモード1に切り替わります。

- [SHIFT] ボタンを押しながら [ROLL] ボタンを押すと、パッドFXモード2に切り替わります。

2 使用したいエフェクトが設定されているパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドの操作

パフォーマンスパッドを押している間、設定されている拍数でエフェクトを加えます。

- 各エフェクトは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

エフェクト A/I	エフェクト B/J	エフェクト C/K	エフェクト D/L
エフェクト E/M	エフェクト F/N	エフェクト G/O	エフェクト H/P

- パフォーマンスパッドを離すとエフェクトを解除します。
- [**PARAMETER ◀**] または [**PARAMETER ▶**] ボタンを押すと、エフェクトA～HとI～Pを切り替えると同時に、rekordboxのデッキ画面のエフェクト表示エリアを切り替えます。

ビートジャンプモード

再生中のトラックのリズムを崩さずに、瞬時に再生位置を移動します。

1 [**SAVED LOOP**] ボタンを押す

ビートジャンプモードに切り替わります。

2 パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに割り当てられた拍数または小節数で、再生位置を移動します。

- 初期設定では、ジャンプする拍数または小節数設定は以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

1 拍 (左方向)	1 拍 (右方向)	2 拍 (左方向)	2 拍 (右方向)
4 拍 (左方向)	4 拍 (右方向)	8 拍 (左方向)	8 拍 (右方向)

- [**PARAMETER ◀**] または [**PARAMETER ▶**] ボタンを押すと、パフォーマンスパッドに割り当てる拍数または小節数設定を切り替えます。

サンプラーモード

サンプラーのサンプラースロットにロードされたトラックを、パフォーマンスパッドを使って再生します。

❖ 準備する

1 rekordbox の画面上部で、サンプラーパネルアイコンをクリックする

rekordbox の画面に、サンプラーパネルが表示されます。

2 本機の [SAMPLER] ボタンを押す

サンプラーモードに切り替わります。

3 [SHIFT] ボタンを押しながら [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、サンプラーバンクを切り替える

サンプラーには4つのバンクがあり、それぞれのバンクには16個のスロットがあります。

- 切り替えたサンプラーのバンクはすべてのデッキで共通となります。

4 [BROWSE] ノブを押して、カーソルをトラックリストへ移動する

5 [BROWSE] ノブを回して、トラックを選択する

6 [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押す

選択したトラックがサンプラースロットにロードされます。

- rekordbox の [環境設定] によっては、すでにロード済みのサンプラースロットへは上書きでロードできないことがあります。

❖ サンプラーを再生する

1 [SAMPLER] ボタンを押す

サンプラーモードに切り替わります。

2 [SHIFT] ボタンを押しながら [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、サンプラーバンクを切り替える

3 rekordboxの画面で、サンプラーゲインを調整する

4 パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに設定されてるスロットの音声を再生します。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

スロット1	スロット2	スロット3	スロット4
スロット5	スロット6	スロット7	スロット8

- サンプラー再生中にパフォーマンスパッドを押すと、先頭に戻って再生を続けます。

5 [SAMPLER VOLUME] ノブを回して、サンプラー音声の音量を調節する

- [SHIFT] ボタンを押しながらもう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、再生を停止します。

キーボードモード

パフォーマンスパッドをキーボード(鍵盤)のように使って、ホットキューに音階をつけます。

1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[HOT CUE] ボタンを押す

キーボードモードに切り替わります。

2 [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、パフォーマンスパッドに割り当てる音の高さを切り替える

3 使用したいホットキューが設定されているパフォーマンスパッドを押す

- パフォーマンスパッドにホットキューが設定されていない場合は、現在の再生位置をキーボードモードで使用するホットキューとして設定します。
- 使用するホットキューを変更するときは、[SHIFT] ボタンを押しながら [HOT CUE] ボタンを押します。

4 パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに設定されてる音の高さで、ホットキューの再生を開始します。

ビートループモード

パフォーマンスパッドを押すと、パフォーマンスパッドに割り当てられている拍数または小節数のループが設定され、パフォーマンスパッドを離してもループ再生を続けます。

1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[SAVED LOOP] ボタンを押す

ビートループモードに切り替わります。

2 パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに設定されてる拍数または小節数で、ループ再生を開始します。

- ビートループの拍数または小節数設定は以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

1/64 拍	1/32 拍	1/16 拍	1/8 拍
1/4 拍	1/2 拍	1 拍	2 拍

- [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押すと、パフォーマンスパッドに割り当てた拍数または小節数設定とrekordboxのデッキ画面のビートループ表示エリアを切り替えます。
- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生を解除します。

キーシフトモード

再生中のトラックのキー（調）を、パフォーマンスパッドに割り当てられている音の高さに変更します。

1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[SAMPLER] ボタンを押す

キーシフトモードに切り替わります。

2 [PARAMETER ◀] または [PARAMETER ▶] ボタンを押して、パフォーマンスパッドに割り当てる音の高さを切り替える

3 パフォーマンスパッドを押す

再生中のトラックのキー（調）を、パフォーマンスパッドに設定されてる音の高さに変更します。

パッドエディター

本機のパフォーマンスパッドに割り当てる機能を rekordbox 上でカスタマイズできます。パッドエディターの詳細については、下記の rekordbox サイトから操作説明書を参照してください。

rekordbox.com/manual

ユーザーモード

DJソフトウェアのMIDIアサインモードを使って、本機のパフォーマンスパッドにお好みのDJソフトウェア機能をアサインできます。

- DJソフトウェアのMIDIアサインモードについては、DJソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

ユーザーモードを使う

ユーザーモードは4つあり、各ユーザーモードで8個のパッドにお好みの機能をアサインできます。

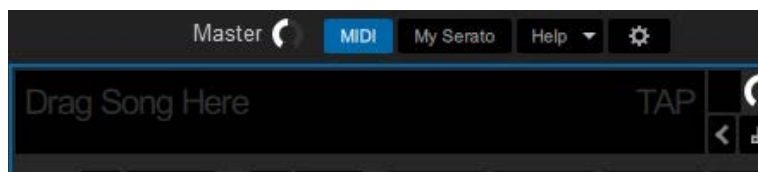
ここでは、Serato DJ Proと組み合わせてユーザーモードを使用する場合を説明します。

1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[HOT CUE]、[ROLL]、[SAVED LOOP]、または [SAMPLER] ボタンを2回続けて押す

- [HOT CUE] :ユーザーモード1に切り替わります。
- [ROLL] :ユーザーモード2に切り替わります。
- [SAVED LOOP] :ユーザーモード3に切り替わります。
- [SAMPLER] :ユーザーモード4に切り替わります。

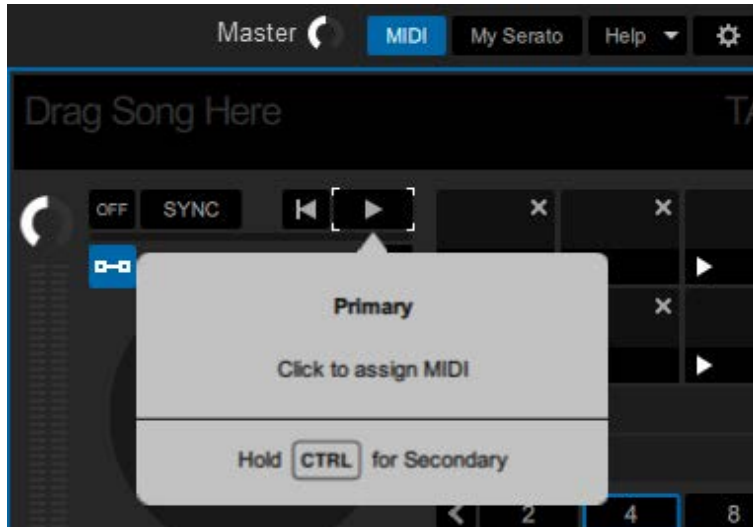
2 Serato DJ Pro画面で、[MIDI] をクリックする

Serato DJ Pro が MIDI アサインモードに切り替わります。



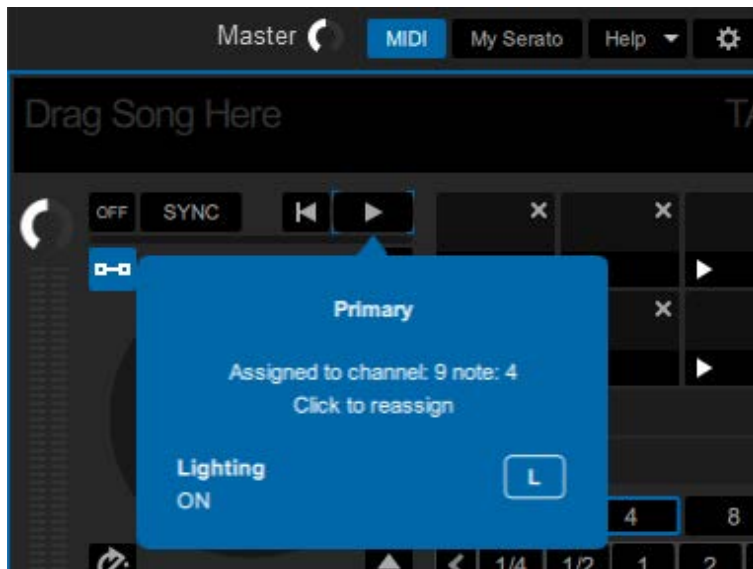
3 本機のパフォーマンスパッドにアサインする機能をクリックする

例：【▶】（PLAY/PAUSE）ボタンをアサインするとき



4 選択した機能をアサインするパッドを押す

アサインに成功すると、アサイン完了メッセージが表示されます。。



- 【MIDI】をクリックすると、MIDIアサインモードを終了します。
- 設定完了後に本機をユーザーモードに切り替えると、パフォーマンスパッドにアサインされたSerato DJ Proの機能を使用できます。

フェーダースタート

フェーダーノブの操作で、再生を開始できます。

フェーダースタートを使う

フェーダースタート機能を使うには、あらかじめ設定ユーティリティの **[PREFERENCE]** タブまたは本機のUTILITY設定で、**[フェーダースタートの動作オプション]** のチェックボックスにチェックをつけてください。

■ 「各種設定を変更する」 (22 ページ)

チャンネルフェーダースタートを使う

1 キューを設定する

- キューポイントの設定方法は、DJソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 一時停止中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを奥側から一番手前の位置に合わせると、キューを設定できます。

2 **[SHIFT]** ボタンを押しながら、チャンネルフェーダーを一番手前の位置から奥側に動かす

キューポイントからトラックの再生を開始します。

- 再生中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを一番手前の位置に戻すと、キューポイントに瞬時に戻り、一時停止します (バックキュー)。
- キューが設定されていないときは、トラックの先頭から再生を開始します。
- 設定ユーティリティの **[PREFERENCE]** タブで、チャンネルフェーダースタートの動作開始と同時にシンク機能をオンにする設定 (Serato DJ Pro 使用時のみ対象) に変更することもできます (22 ページ)。
- キュー待機中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを奥側から一番手前の位置に合わせると、キューポイントからトラックの再生を開始します。

クロスフェーダースタートを使う

1 キューを設定する

- キューポイントの設定方法は、DJソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 一時停止中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらクロスフェーダーを左端または右端に合わせると、キューを設定できます。

2 クロスフェーダーを左端または右端の位置に合わせる

- フェーダースタートさせるチャンネルとは反対側の端に合わせます。

3 **[SHIFT]** ボタンを押しながら、クロスフェーダーを左端または右端から逆側に動かす

キューポイントからトラックの再生を開始します。

- 再生中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらクロスフェーダーを元の位置に戻すと、キューポイントに瞬時に戻り、一時停止します（バックキュー）。
- キューが設定されていないときは、トラックの先頭から再生を始めます。
- キュー待機中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらクロスフェーダーを左端から右端、または右端から左端の位置に合わせると、キューポイントからトラックの再生を開始します。

DECK 3 / DECK 4

DJソフトウェアのDECK 3、DECK 4を、本機を使って操作します。

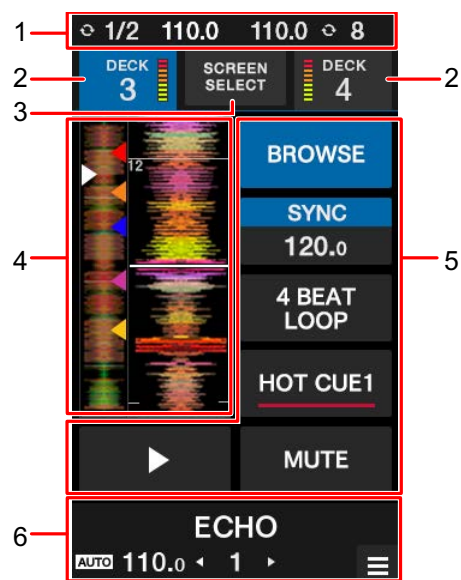
DECK 3 / DECK 4を使う

1 [MENU] 画面で、[DECK 3] または [DECK 4] をタッチする

DECK 3 または DECK 4 の操作画面が表示されます。

☐ 「MENU画面」 (15 ページ)

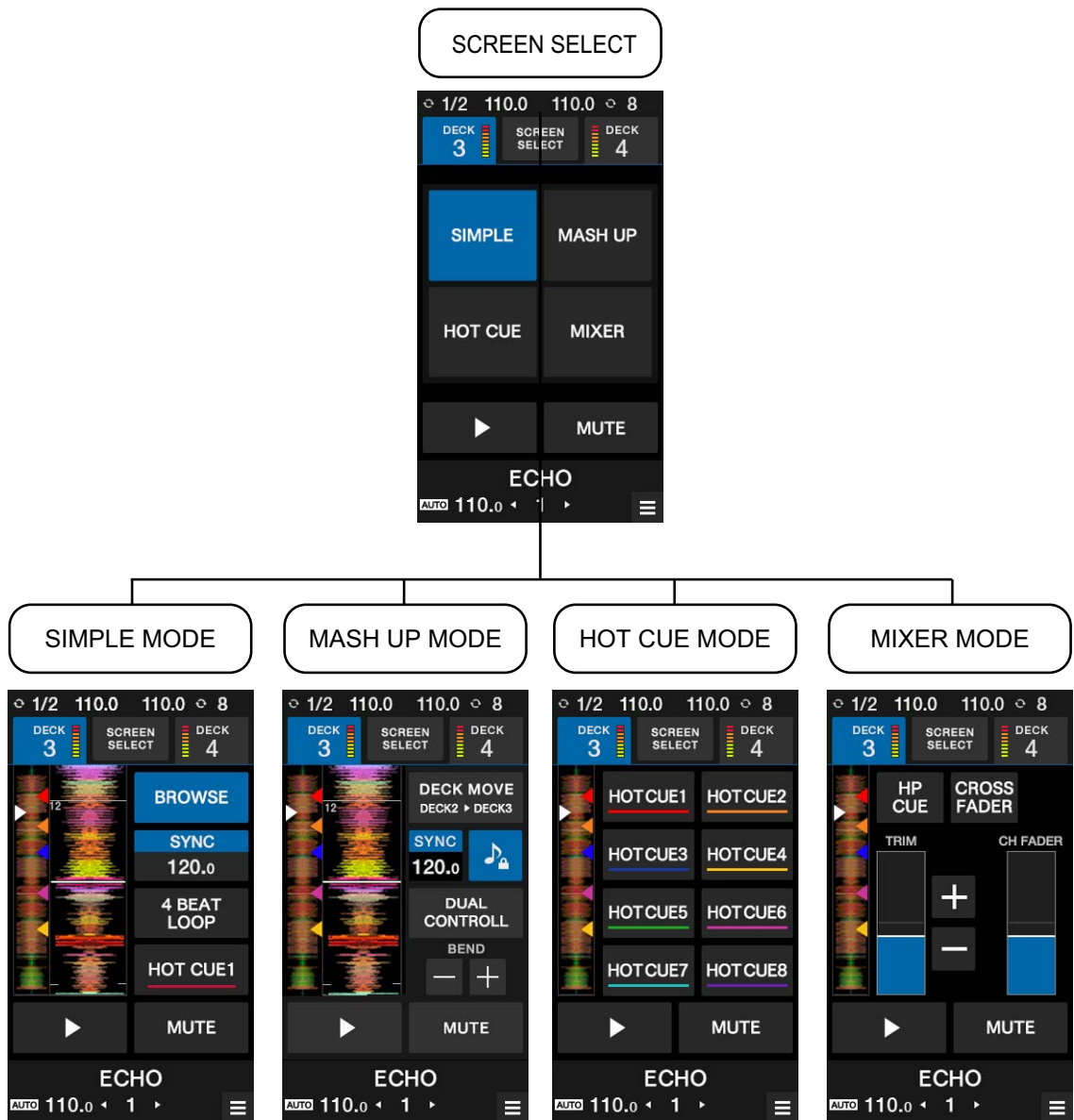
2 画面のボタンを操作する



1. **状態表示部** : DECK 1とDECK 2のBPMとループ拍を表示します。
2. **DECK 3 / DECK 4表示とレベルメーター** : 選択されているデッキをハイライト表示します。タッチしてデッキを切り替えます。
3. **SCREEN SELECT** : タッチすると、モード選択画面を表示します (100 ページ)。
4. **WAVEFORM表示** : DJソフトウェアで解析した全体波形、詳細波形、ホットキューポイントなどを表示します。

5. 操作ボタン：各ボタンをタッチして操作します。
6. エフェクト表示／MENUボタン部：選択しているエフェクトの情報を表示します。
タッチすると、[MENU] 画面を表示します。

モード選択



— **[SIMPLE]**：基本の操作モードです。

- **[BROWSE]**：DECK 3／DECK 4のブラウズ画面を表示します（35 ページ）。

- **[SILENT CUE]**：再生中のトラックの音声をミュートします。もう一度タッチすると、ミュートが解除されます。ホットキューを呼び出して、ミュートを解除することもできます。
- **[SYNC]**、**[4BEAT LOOP]**、**[HOT CUE1]**、**[PLAY]**：ソフトウェアの各機能を操作できます。

— **[MASH UP]**：

Serato DJ Pro と組み合わせるとき：

- **[DECK MOVE]**：DECK 2 から DECK 3 または DECK 1 から DECK 4 へ楽曲が移動されます。
- **[DUAL DECK]**：DUAL DECK モードになり、2つのデッキ（DECK 1 と DECK 3、または DECK 2 と DECK 4）を同時に操作できます。
DUAL DECK モードでは以下をコントロールできます。

操作するボタン／ノブ	機能
DVS でのターンテーブルの操作、 HID を使用した際のジョグダイヤルの操作	DECK 再生操作
TRIM	音量調節
HI、MID、LOW	ISO / EQ 操作
チャンネルフェーダー	音量操作
クロスフェーダー	音量操作
FILTER	FILTER やその他のエフェクトの調整
エフェクトセクション	エフェクトの操作
パフォーマンスパッドセクション	ホットキューなどの操作
ヘッドホンセクション	ヘッドホンから出力する音声の調整
ループセクション	ループ操作
WAVEFORM 画面上の操作	シンク機能やキーロックの操作

- **[SYNC]**、**[KEYLOCK]**、**[BEND]**：ソフトウェアの各機能を操作できます。

— **[HOT CUE]**：8つのホットキューを操作できます。

— [MIXER]

- [HP CUE] : ヘッドホンに音声を出力します。
- [CROSSFADER ASSIGN] : 出力音声をクロスフェーダーに割り当てます。
- [TRIM] : 入力音声の音量を調整します。
- [CH FADER] : 音量を調整します。

TOUCH MIDI

MIDI 対応ソフトウェアの機能を、本機の画面から操作します。

TOUCH MIDI を使う

1 [MENU] 画面で、[TOUCH MIDI] をタッチする

TOUCH MIDI画面が表示されます。

☰ 「MENU画面」 (15 ページ)

2 画面のボタンを操作する



1. **状態表示部**：BPMとループ拍を表示します。
2. **MIDI TYPE**：タッチして、MIDI TYPEを切り替えます。
3. **MIDI 操作部**：ソフトウェアの表示されている機能进行操作します。

設定

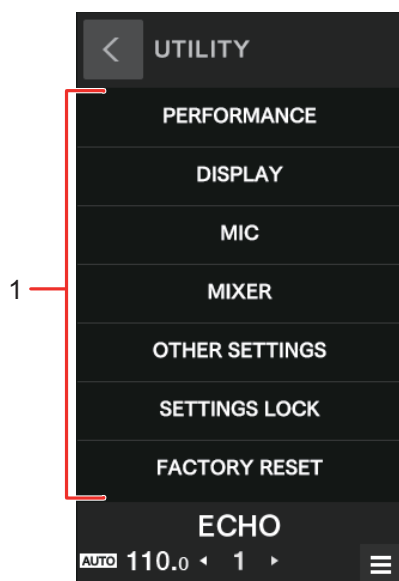
設定を変更する

UTILITY メニューから本機の設定を変更します。

設定を変更するときに、本機にPC／Macが接続されている場合は、設定した内容はPC／Macに保存されます。次回、このPC／Macを本機に接続した際に、保存されている設定が本機に反映されます。

1 [MENU] 画面で、をタッチする

UTILITY メニューが表示されます。



1. UTILITY メニュー (105 ページ)

 「MENU 画面」 (15 ページ)

2 設定メニューをタッチして、選択する

3 設定項目をタッチして、選択する

UTILITY 設定項目

❖ PERFORMANCE メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
CROSSFADER	
CROSSFADER CUT LAG	クロスフェーダーの両端の音声を出力しない範囲を設定します。 設定値：0～7*～52
CROSSFADER SMOOTHING	クロスフェーダーを動かしたときの急激な音量変化を緩和する機能を設定します。 設定値：NONE*、SMALL、LARGE
CROSSFADER THRU	クロスフェーダーを使用するかどうかを設定します。 - クロスフェーダーを使用しないときに [ON] に設定します。 - 設定値：OFF*、ON
LOOP OPTIONS	
LOOP OPTION	[AUTO LOOP] ボタンの動作（指定した拍のループ再生またはオートビートループ（AUTO LOOP）を設定します。 設定値：OFF*、ON
LOOP LENGTH	[LOOP OPTION] を [ON] に設定したときに適用する拍数を設定します。 設定値：1/4、1/2、1、2、4*、8、16
PAD MODE OPTIONS	
PAD MODE OPTIONS	パフォーマンスパッドモードの切り替えに使用するボタンを設定します。 設定値：SHIFT*、MULTI

設定項目	説明
------	----

LOAD OPTIONS

LOAD OPTIONS	楽曲をロードしたあとに、カーソルを1つ下に移動するかどうかを設定します。 設定値：OFF*、ON
--------------	---

FADER START

FADER START	フェーダースタートの機能を設定します。 設定値：OFF*、CUE、HOT CUE
FADER START SYNC	フェーダースタート機能を使用する場合に、シンク機能を使用するかどうかを設定します。 設定値：OFF*、ON

❖ DISPLAY メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
------	----

WAVEFORM DISPLAY CONTENTS

SYNC & KEYLOCK BUTTON	画面のビートシンクとキーロックを表示のみにするかどうかを設定します。 設定値：OFF、ON*
FX DISPLAY	エフェクト情報を表示するかどうかを設定します。 設定値：OFF、ON*

設定項目	説明
WAVEFORM DISPLAY OVERLAY	
PAD MODE DISPLAY	パッドモードが変わったときに、パッドモード名を表示するかどうかを設定します。 設定値：OFF、CHANGE*、ALWAYS
BEAT COUNTDOWN	次のホットキューポイントまでの小節数および拍数の表示を設定します。 設定値：OFF*、BARS、BEATS
STATUS DISPLAY	DJ ソフトウェアの状態を表示するかどうかを設定します。 設定値：OFF、ON*
BROWSE DISPLAY	
TRACK LINES	ブラウザ画面での 1 曲の情報表示行数を設定します。 設定値：2LINES*、1LINE
BROWSE AUTO TRANSITION	[BROWSE] ノブを回したときに、自動的にブラウザ画面を表示するかどうかを設定します。 設定値：OFF、ON*
FONT SIZE	ブラウザ画面で表示する文字のサイズを設定します。 [MID] 以外に設定した場合は、英語のみの表示になります。 設定値：SMALL、MID*、LARGE
WAVEFORM TOUCH FUNCTION	
WAVEFORM TOUCH FUNCTION	WAVEFORM 表示をタッチしたときの動作を設定します。 設定値：OFF*、BEND、DECK MOVE
NEEDLE SEARCH with SHIFT PRESS	ニードルサーチ機能を有効にするかどうかを設定します。 設定値：OFF、ON*

設定項目	説明
------	----

SCREEN SETTING

LCD BRIGHTNESS	液晶の輝度を調整します。 • 設定値：1、2、3*、4、5
----------------	----------------------------------

❖ MIC メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
------	----

MIC TALKOVER

MIC TALKOVER	マイクトークオーバーのモードを設定します。 • 設定値：OFF*、ADVANCED、NORMAL
--------------	---

MIC TALKOVER LEVEL	マイクトークオーバーのレベルを設定します。 • 設定値：-6dB、-12dB、-18dB*、-24dB
--------------------	--

MIC LOW CUT

MIC LOW CUT	マイクのローカットフィルターを設定します。 • 設定値：OFF、ON*
-------------	--

MIC OUTPUT

MIC TO BOOTH	ブース出力音声にマイク音声をミックスするかどうかを設定します。 • 設定値：OFF、ON*
--------------	--

MIC TO REC	REC 出力音声にマイク音声をミックスするかどうかを設定します。 • 設定値：OFF、ON*
------------	---

設定項目	説明
------	----

MIC LIMITER

MIC LIMITER for MASTER	マスター出力音声に入力するマイク音声のリミッターを使用するかどうかを設定します。 設定値：OFF*、ON
MIC LIMITER for BOOTH	[BOOTH] 端子から出力する音声に入力するマイク音声のリミッターを使用するかどうかを設定します。 設定値：OFF*、ON

❖ MIXER メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
------	----

PHONO ATT

CH1 PHONO ATT. for DVS	CH 1 の Control Tone 信号レベルを調整します。 設定値：－6dB ～ －3dB* ～ 0dB
CH2 PHONO ATT. for DVS	CH 2 の Control Tone 信号レベルを調整します。 設定値：－6dB ～ －3dB* ～ 0dB

ISOLATOR/EQ

CH1 ISOLATOR/EQ	CH 1 の [HI]、[MID]、[LOW] ノブで調整する機能を設定します。 設定値：EQ、ISO*
CH2 ISOLATOR/EQ	CH 2 の [HI]、[MID]、[LOW] ノブで調整する機能を設定します。 設定値：EQ、ISO*

AUX INPUT LEVEL

AUX INPUT LEVEL	AUX の入力レベルを設定します。 設定値：0dB*、12dB
------------------------	--

設定項目	説明
------	----

MASTER OUT ¹

PEAK LIMITER	[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から出力する音声の歪みを緩和するかどうかを設定します。 設定値：OFF、ON*
MASTER OUT ATT	[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から出力する音声の減衰レベルを設定します。 設定値：－12dB、－6dB、0dB*
MONO/STEREO	[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル／ステレオ）を設定します。 設定値：MONO、STEREO*

BOOTH OUT ¹

BOOTH ATT.	[BOOTH] 端子から出力する音声の減衰レベルを設定します。 設定値：－12dB、－6dB、0dB*
MONO/STEREO	[BOOTH] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル／ステレオ）を設定します。 設定値：MONO、STEREO*

❖ OTHER SETTINGS メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
POWER MANAGEMENT	パワーマネジメント機能を設定します（111 ページ）。 設定値：OFF、ON*
LED BRIGHTNESS	ボタンとパフォーマンスパッドの輝度を調整します。 設定値：1*、2、3
PC UTILITY	設定ユーティリティを起動します（19 ページ）。 設定値：AUTO、OFF*

❖ FACTORY RESET メニュー

設定項目	説明
FACTORY RESET	初期設定に戻します。 • 設定値：OK、CANCEL

❖ SETTINGS LOCK メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
SETTINGS LOCK	MIC メニューと MIXER メニューの変更不可を設定します。 • 設定値：LOCK*、UNLOCK

パワーマネジメント機能

[POWER MANAGEMENT] を [ON] に設定しているときに、本機 of 各チャンネルに音声信号が入力されていない状態で本機を操作せずに20分経過すると、自動的にオフモードになります。
[SMOOTH ECHO ON] ボタンを押すと、オフモードを解除できます。

- 本機は、パワーマネジメント機能を [ON] に設定して出荷しています。
- パワーマネジメント機能を使用しないときは [OFF] に設定してください。
- パワーマネジメント機能を [OFF] にしたときは、消費電力が増加することがあります。

クロスフェーダー部のクッションを交換する

安全にお使いいただくため、必ず下記の内容にしたがってください。

本製品は、お客様ご自身の責任において交換していただくこととなります。ご了承ください。

警告

- 必ず電源をオフにして作業してください。
- 作業が完了するまでは絶対に電源をオンにしないでください。
- 指定部以外は絶対に触らないでください。
- 付属の部品以外は絶対に使用しないでください。
- 取り外した部品を製品内部に落とさないようにご注意ください。
- 濡れた手で作業しないでください。
- 液体を近くに置いたまま作業をしないでください。
- 液体のかかるおそれがある場所で作業をしないでください。

注意

交換作業は下記に注意して行ってください。

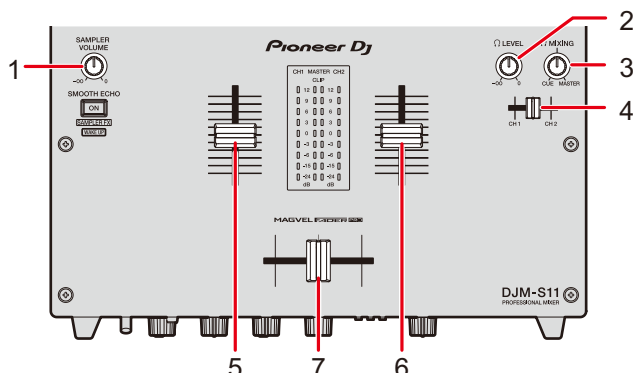
- 平らで滑りにくい場所で作業してください。
- ほこりの多い場所などで作業しないでください。
- 取り外した部品は取り付けるまで保管してください。
- 小さな部品はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師にご連絡ください。
- 部品を製品内部に落として取り出せなくなった場合は、電源はオフの状態のまま、必ず電源プラグを抜いてから、修理をご依頼ください。

免責

- 交換作業はお客様のご判断・責任となりますので、本書記載事項を良く読み慎重に行ってください。
- 交換作業により生じた損害につきましては、当社は一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 交換時に発生した部品の紛失及び破損などは、保証期間内であっても有償購入となります。
- 交換作業が原因で、製品に不具合、破損、その他修理対応が必要な状況が生じた場合、保証期間内であっても有償修理となります。(破損の状況によっては修理不能となる場合があります。)

1 本機の電源をオフにする

2 7カ所のノブを取り外す



No.	操作部名称	部品
1	SAMPLER VOLUME ノブ ¹	ロータリーノブ
2	LEVEL ノブ ¹	
3	MIXING ノブ ¹	
4	ヘッドホン CUE フェーダー ¹	フェーダーノブ (小)
5,6	チャンネルフェーダー	フェーダーノブ (大)
7	クロスフェーダー	

¹ 挿し込み式です。そのまま上に引き抜いてください。抜けにくい場合はすべりにくいものを巻きつけて抜いてください。

- フェーダーノブ (大) は下記の部品で構成されています。

部品

指示線部



部品

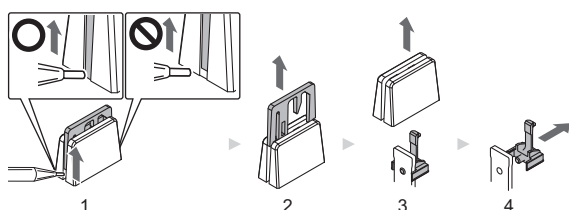
ノブ部



ベース部

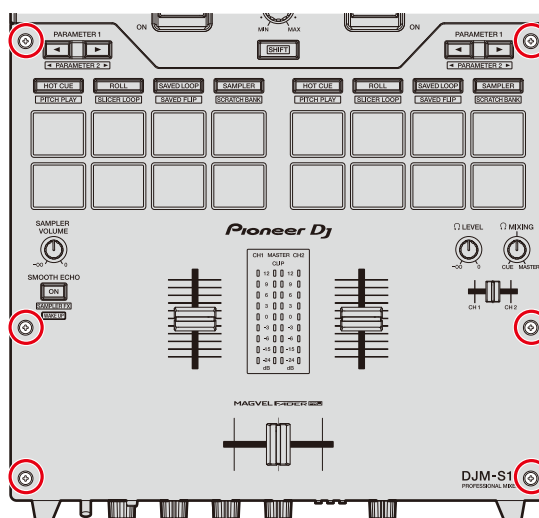


- フェーダーノブ（大）の取り外し方は下記を参考にしてください。



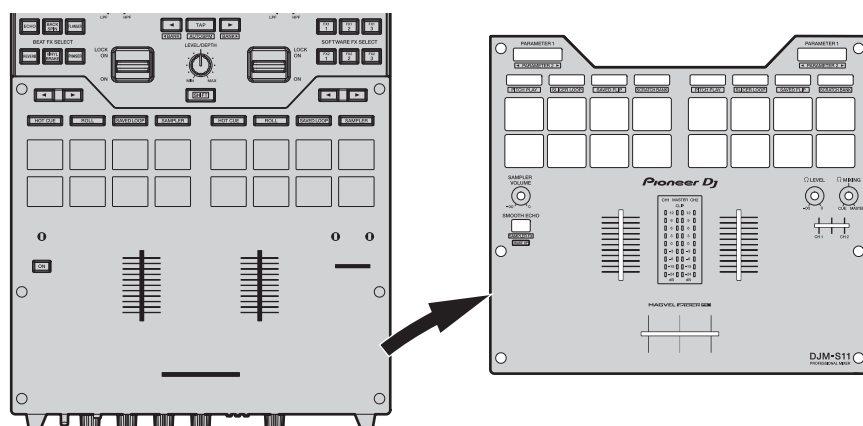
- 指示線部の下端を先の細いもので持ち上げる
ー 指示線部の下端がノブ部底辺まで伸びている側を持ち上げてください。
- 指示線部を上引き抜く
- ノブ部を上引き抜く
- ベース部を横引き抜く

3 ドライバーを使って、6カ所のネジを外す

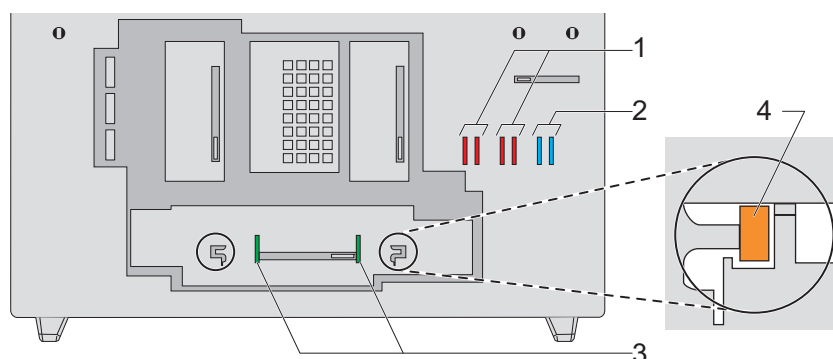


- ドライバーは、サイズ1番を使用してください。1番以外を使用すると、ネジが破損する恐れがあります。

4 アルミパネルを取り外す



5 クッションを交換する



No. 部品

1 フェーダークッションA (硬さ:硬い)

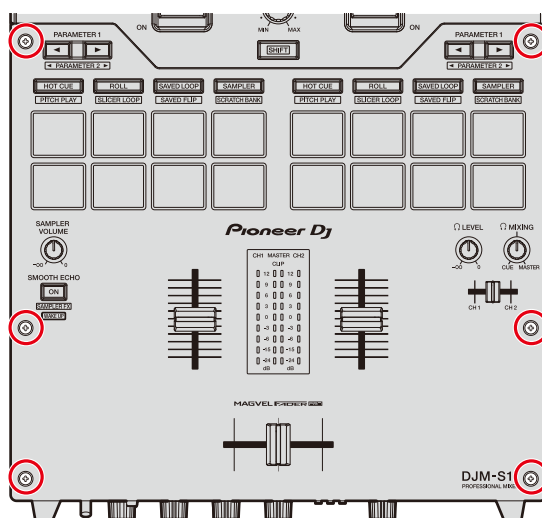
2 フェーダークッションB (硬さ:軟らかい)

3 フェーダークッションC (硬さ:やや硬い)

- 取り付け済みのフェーダークッションC は、お好みの硬さのクッションと交換してください。
- クッションが取り外しにくい場合はピンセットなどを使用してください。
- クッションは製品内部に落とさないように注意してください。

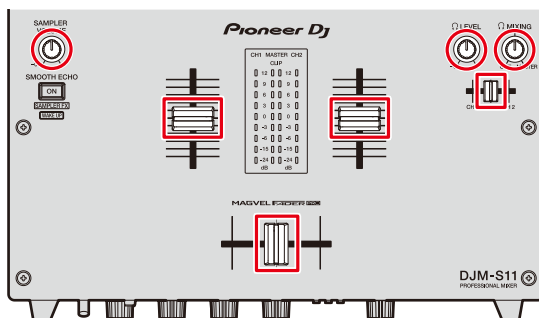
- クッションが破損する場合がありますので、無理にねじったり引っ張ったりしないでください。
- クッションを交換した後は、クロスフェーダーの両端の音声を出力しない範囲を設定してください（105 ページ）。
- フェーダークッションAをフェーダーユニット両脇の孔（上図 4）に縦に差し込むとフェーダーユニットを固定できます。お好みにより、クッションを差し込んで使用してください。

6 アルミパネルを取り付け、外した6か所のネジを締める

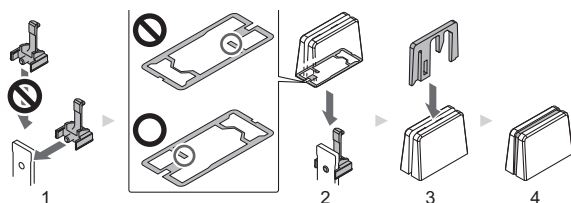


- ネジを締める前に、内部に部品やゴミなどが落ちていないか確認してください。
- ネジを強く締め過ぎないでください。破損する場合があります。
- ネジを締めるときは、ネジの頭（十字穴）をつぶさないように注意してください。
- 絶対にネジをななめに取り付けしないでください。部品が破損する場合があります。

7 外した7か所のノブを取り付ける



- ロータリーノブとフェーダーノブ（小）は挿し込み式です。垂直に押し込んで取り付けてください。
- フェーダーノブ（小）はノブの中心の穴に軸を挿して取り付けてください。
- ロータリーノブは軸の向き（Dカット面）に注意して、ノブの向きを合わせて取り付けてください。
- 部品はななめに取り付けたり、強く押し込みすぎたりしないでください。破損する恐れがあります。
- フェーダーノブ（大）の取り付け方は下記を参考にしてください。



1. ベース部を横から差し込む
2. ノブ部を向きに注意して差し込む
3. 指示線部を向きに注意して差し込む

部品の購入について

- 紛失および破損などにより部品が必要な場合は、有償にてご購入いただけます。
下記の部品名称および型名をご確認後、部品受注センターへご依頼ください。部品受注センターについては、本製品に同梱されている「使用上のご注意」を参照してください。

部品	個数
ロータリーノブ	1
フェーダーノブ (小)	1
フェーダーノブ (大) (指示線部)	1
フェーダーノブ (大) (ノブ部)	1
フェーダーノブ (大) (ベース部)	1
ネジ	1
フェーダークッションA	1
フェーダークッションB	1
フェーダークッションC	1

スペック

仕様

一般

本体質量	5.2 kg
最大外形寸法	267 mm（幅）× 452.2 mm（奥行）× 107.9 mm（高さ）
許容動作温度	+ 5 °C ~ + 35 °C
許容動作湿度	5 % ~ 85 %（結露のないこと）

オーディオ部

サンプリングレート	48 kHz
MASTER D/A コンバーター	32 bit
CH 入力 A/D コンバーター	24 bit
その他の A/D, D/A コンバーター	24 bit

周波数特性

USB, LINE, MIC, AUX	20 Hz ~ 20 kHz
---------------------------	----------------

S/N 比（定格出力時、A-WEIGHTED）

USB	115 dB
LINE	105 dB
PHONO	90 dB
MIC	80 dB
AUX	90 dB

全高調波歪率（20 Hz ~ 20 kHzBW）

USB	0.003 %
LINE	0.005 %

基準入力レベル/入力インピーダンス

LINE	-12 dBu/47 kΩ
PHONO	-52 dBu/47 kΩ
MIC	-57 dBu/3.3 kΩ
AUX	-12 dBu/47 kΩ

最大入力レベル

PHONO	-17.8 dBu
LINE	+15 dBu
MIC	+2.3 dBu
AUX	+17 dBu（0 dB） / +5 dBu（12 dB）

基準出力レベル/負荷インピーダンス/出力インピーダンス

MASTER 1	+6 dBu/10 kΩ/390 Ω以下
MASTER 2	+2 dBu/10 kΩ/390 Ω以下
BOOTH	+6 dBu/10 kΩ/390 Ω以下
PHONES	+8 dBu/32 Ω/10 Ω以下

定格出力レベル/負荷インピーダンス

MASTER 1	+25 dBu/10 kΩ
MASTER 2	+21 dBu/10 kΩ
BOOTH	+25 dBu/10 kΩ

クロストーク

LINE	82 dB
------------	-------

チャンネルイコライザー特性

ISO

HI.....	−∞ dB ~ +6 dB (20 kHz)
MID	−∞ dB ~ +6 dB (1 kHz)
LOW	−∞ dB ~ +6 dB (20 Hz)

EQ

HI.....	−26 dB ~ +6 dB (20 kHz)
MID	−26 dB ~ +6 dB (1 kHz)
LOW	−26 dB ~ +6 dB (20 Hz)

マイクイコライザー特性

HI.....	−12 dB ~ + 12 dB (10 kHz)
LOW	−12 dB ~ + 12 dB (100 Hz)

入力/出力端子

LINE入力端子

RCAピンジャック.....	2 系統
----------------	------

PHONO入力端子

RCAピンジャック.....	2 系統
----------------	------

MIC入力端子 (XLR/TRS)

XLR コネクター & 1/4" TRS ジャック	1 系統
---------------------------------	------

AUX入力端子

RCAピンジャック.....	1 系統
----------------	------

MASTER出力端子

XLR コネクター	1 系統
RCAピンジャック.....	1 系統

BOOTH出力端子 (TRS)

1/4" TRS ジャック	1 系統
---------------------	------

PHONES 出力端子

1/4" ステレオフォンジャック 1 系統

3.5 mm ステレオミニジャック 1 系統

CDJ/CONTROLLER 端子

USB A タイプ 2 系統

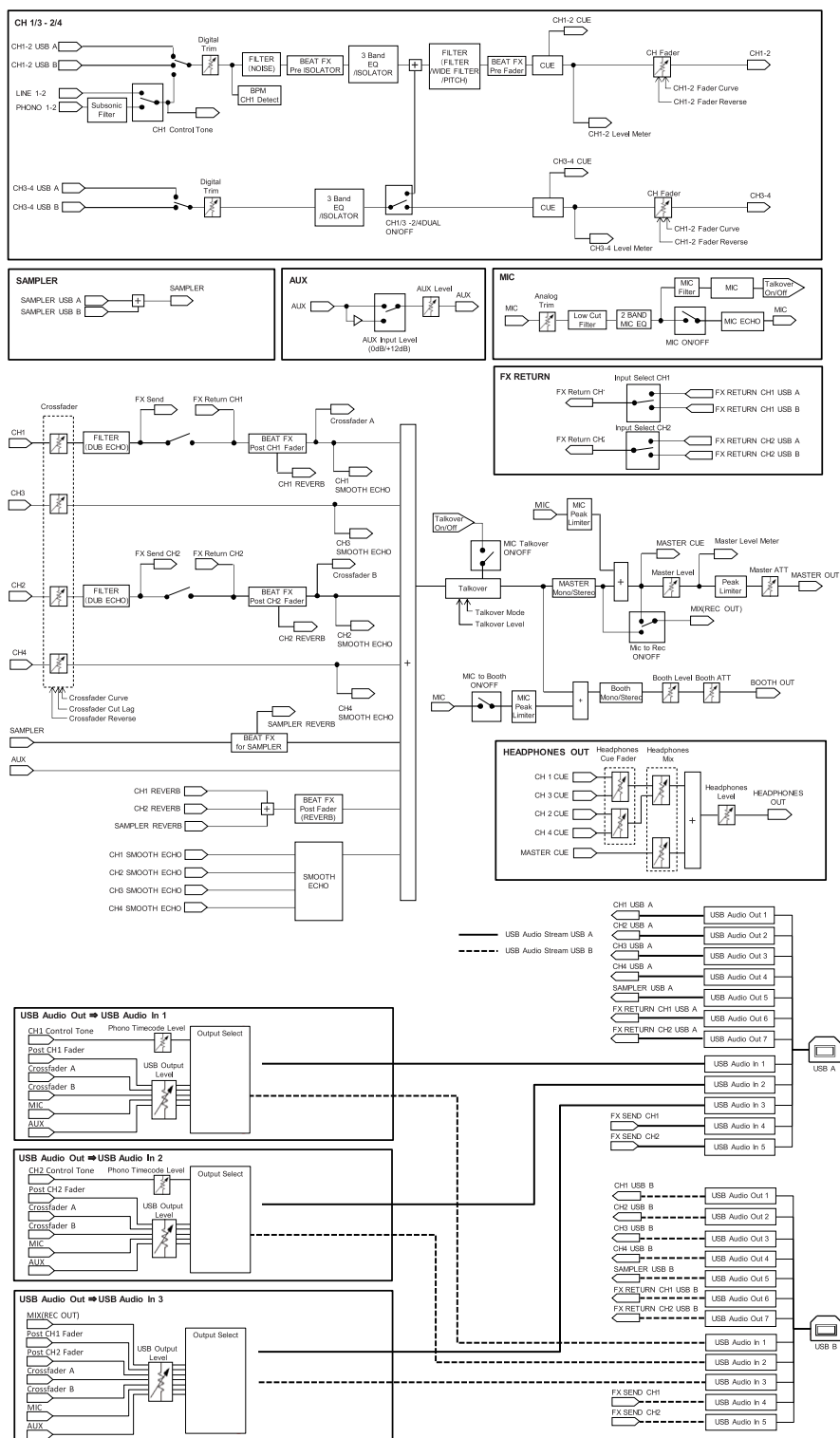
電源供給 5 V/500 mA 以下

USB 端子

USB B タイプ 2 系統

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム



その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、下記の項目および、Pioneer DJ サポートページの [FAQ/DJ ソフトウェア等のサポート情報] から [DJM-S11] の [よくある質問 (FAQ)] を確認してください。

pioneerdj.com/support/

- 本機と接続している機器も確認してください。
- 電源を入れなおすと正常に動作することがあります。

それでも正常に動作しないときは、「使用上のご注意」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

液晶画面について

- 液晶画面の中に小さな黒い点や明るく光る点（輝点）が現れることがありますが、液晶特有の現象で故障ではありません。
- 寒い場所で使用する際は、本機の電源をオンにしたあと液晶画面が暗いことがあります。時間がたつと正常な明るさに戻ります。
- 液晶画面に直射日光が当たって画面表示が見えにくいときは、直射日光をさえぎってください。

クリーニングについて

液晶画面が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

- 有機溶剤・酸・アルカリ類は使用しないでください。

タッチディスプレイについて

- 操作は指で行い、無理な力をかけないでください。
- 指以外の物、特にボールペン、シャープペンシル、とがった爪先など、先端の硬い物や先端の鋭利なもので操作しないでください。

商標および登録商標について

- rekordbox™ は、AlphaTheta 株式会社株式会社の商標または登録商標です。
 - Mac および macOS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
 - Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
 - ASIO は Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。
 - Serato DJ Pro は Serato Limited 社の登録商標です。
- その他記載されている商品名、技術名および会社名などは、各社の商標または登録商標です。

ソフトウェアライセンス

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾（ライセンス）について記載しています。正確な内容を保持するため、原文（英語）を記載しています。

Copyright © 2010 Texas Instruments Incorporated - <http://www.ti.com/>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS «AS IS» AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

著作権

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- CD などから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用するうえでのすべての責任を負います。
- インターネットなどからダウンロードされる音楽を取り扱う際は、ダウンロードした者自身が、ダウンロードサイトとの契約に則ってそれを使用するうえでのすべての責任を負います。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

© 2020 AlphaTheta 株式会社 禁無断転載

<DRI1662-B>